

構造設計標準仕様

適用は 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

(1) 工事名称 富浜公民館建設工事 (備蓄倉庫)
建築場所 山梨県大月市富浜町鳥沢1979-1

(2) 工事種別 新築 増築 増改築 改築

(3) 構造種別
木造(W) 補強コンクリートブロック造(CB) 鉄骨造(S)
鉄筋コンクリート造(RC) 壁式鉄筋コンクリート造(WRC)
鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC) 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造(WPRC)

(4) 階数
地下 階 地上 1 階 塔屋 階

(5) 主要用途 倉庫業でない倉庫 (備蓄倉庫)

(6) 屋上付属物
広告塔 太陽光発電パネル0.20KN/m² キュービクル KN 空調室外機

(7) 増築計画 有 () 無

(8) 付帯工事
門扉 擁壁 外部外構工事

(9) 特別な荷重
エレベータ 人乗 (ロープ式 油圧式) リフト KN クレーン KN
倉庫積載床用 N/m² 受水槽 KN
積雪荷重 1300 N/m²

(10) 構造計算ルート X方向ルート - (1) Y方向ルート - (1)

2. 使用構造材料

(1) コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度 F _c =N/cm ²	耐久設計基準強度 F _d =N/cm ²	スランプ cm	備考
捨コン・ラップコンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	18		18	
土間コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	18、21、24		15	
基礎、基礎はり	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	18、21、24	24 (標準)	18	
柱、はり、床、壁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 軽量	18、21、24	24 (標準)	18	
	<input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 軽量	18、21、24			比重
押えコンクリート	<input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 軽量	15、18、24			比重
	<input type="checkbox"/> 普通	18、21、24		18	

混和剤

(2) コンクリートブロック (CB)
A種 B種 C種 厚 100、120、150、190

(3) 鉄筋

種類	径	使用箇所	継手工法	
異形鉄筋	<input checked="" type="checkbox"/> SD295A	D10~D16	躯体、床	<input checked="" type="checkbox"/> 重ね継手
	<input type="checkbox"/> SD295B			
	<input type="checkbox"/> SD345			
	<input type="checkbox"/> SD390			
高強度せん断補強筋				<input type="checkbox"/> 特殊継手
丸鋼	<input type="checkbox"/> SR235			
溶接金網 (JIS G 3551)				()

(4) 鉄骨

種類	使用箇所	現場溶接	備考
<input type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SN490B <input type="checkbox"/> SN400A、B	ブドウ棚 梁	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> STKR400 <input type="checkbox"/> STKR490 <input type="checkbox"/> STK400		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> BCR295 <input type="checkbox"/> BCP235		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> SM490A <input type="checkbox"/> SN490B <input type="checkbox"/> SN490C		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> SSC400		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	

○使用箇所の詳細については別途図示とする。

(5) ボルト

高力ボルト M16 F8T 普通、F10T 特殊、S10T 認定品 (M12、M16、M20、M22)
中ボルト 特殊、S8T 認定品 (M12、M16、M20、M22) (メッキ部分)

アンカーボルト φ= mm L= mm
 M16 L=400 mm ナット (シングル、ダブル)
 M L=図参照 mm ナット (シングル、ダブル)

スタッドボルト φ= mm L= mm 使用箇所 (柱 大梁 小梁)
φ= mm L= mm 使用箇所 (柱 大梁 小梁)

(6) 屋根、床、壁

ALC 厚 100 使用箇所 玄関周辺壁

折版型式 H= 厚

折版型式 H= 厚

キーストプレート型式 H= 厚

特殊デッキプレート H= 厚

フラットデッキ H= 厚

3. 令129条の2の4の事項

建築設備 (昇降機を除く)、建築設備の支持部及び緊結金物は腐食または腐朽の恐れのないものとする。
屋上から突出する水櫃、煙突冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力状主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。

煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支柱を設けたものを除き、90cm以下とすること。

煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は、厚さが2.5cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。

建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、
風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障がない構造とすること。
建築物の部分を通して配管する場合に於いては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずる恐れがある場合において、伸縮継ぎ手又は可換継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
管を支え、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。

法第20条第一号から3号までの建築物に設ける屋上から突出する水櫃、煙突その他これらに類するものについては建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造上安全なものとする。

4. 地盤

(1) 地盤調査資料
有 (敷地内 近隣) ボーリング調査 平板載荷試験 SWサウンディング
無 (調査予定 有 無)

(2) 地盤調査計画
ボーリング調査 静的貫入試験 標準貫入試験 水平地盤反力係数の測定
土質試験 物理探査 平板載荷試験

(3) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある

(4) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎・杭の位置を明記すること)

深度	土質	N値	標準貫入試験						○調査地番 敷地内
			10	20	30	40	50	60	
1									
2								○支持地盤、地層及び深さについてのコメント	
3								○位置図	
4								○孔内水位	
5								GL - m	
6									

5. 地業工事

(1) 直接基礎 ベタ基礎 布基礎 独立基礎 試験堀 有 無
深さGL-0.50m、支持層-地盤改良 長期許容支持力 50 KN/m² 載荷試験 有 無

(2) 地盤改良 支持層- 礫混じり粘土

杭工法	仕様・支持地盤等	施工法	備考
<input type="checkbox"/> 浅層改良	支持地盤: 砂礫層	<input type="checkbox"/> 浅層改良 (一般工法)	
<input checked="" type="checkbox"/> 環境パイルS	支持地盤: 礫混じり粘土	<input checked="" type="checkbox"/> 環境パイルS工法 同等工法	技術審査証明 取得工法とする。

杭工事仕様 施工計画書承認 施工結果報告書
試験 (有 無) (一軸圧縮試験 載荷)

改良径 (mm)	設計支持力 (KN/本)	杭先端の深さ (m)	本数	特記事項
120	32.5	8.55	26	

6. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート
 コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5 (2009年度版) による。
 耐久設計基準強度 F_d 一般 標準 長期
セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
 調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
 フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真 (カラー) を保管し承認を得ること。測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一資料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
 使用するコンクリートの圧縮強度試験は、普通コンクリートでは、標準養生を行った供試体を用いて材齢28日で行い、1回の試験は打込み区ごと、打込み日ごと、かつ150m³またはその端数ごとに3個の供試体を用いて行う。
高強度コンクリートでは、打込み日かつ300m³ごとに検査ロットを構成して行なう。1検査ロットにおける検査回数は3回とする。検査は適当な間隔をあけた任意の3台のトラックジテータから採取した合計9個の供試体の試験結果から行う。
 ポンプ打ちコンクリートは、打ち込み位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技師または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。

(2) 鉄筋
 鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。
 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。
 D19未満は、すべて重ね継手とする。継手(D19以上)をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋の圧接工事標準仕様書」による。
 ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと(200箇所を超えるときは、200箇所ごと)に1回行い、1回の試験は30箇所以上とする。外観検査 有 無、引張試験 有 無、超音波探傷試験 有 無
 柱の帯筋(HOOP)の加工方法は、H型(タガ型) W型(溶接型) S型(スパイラル型)とする。
 コンクリート及び鉄筋の試験は下記の試験機関で行うこと
(「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条による)
試験機関名 公共試験機関
代行業者名
代行業者とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。

(3) 型枠
 材料 合板厚 12mmを標準とする。
 型枠存置期間

種類 部位 の 構造	せき板				支柱			
	基礎、はり側、柱、壁	スラブ下、はり下		スラブ下				
コンクリート 打込み時 の 気温	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5~15℃	3	5	6	10	12	25	28
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの 圧縮強度	5N/mm ²	設計基準強度の50%			設計基準強度の 85% 100%			

注) 1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。

注) 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。

注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。

注) 4 盛りかえ後の支柱顶部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。

注) 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしたはならない。

注) 6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6. 鉄骨工事

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
 日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
 日本建築センター「冷間成形形鋼管設計・施工マニュアル (改訂版)」

(2) 工事監理者の承認を必要とするもの
 製作工場 製作要領書 工作図 施工計画書
 認定または登録工場 (J グレード以上) グレード都登録 ランク)
 材料規格証明書または試験成績書
 鋼材 高力ボルト 特殊ボルト 頭付スタッド
※社) 日本鋼構造協会「建築鋼構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート
 社内検査表

(3) 工事監理者が行う検査項目
 印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること
 現寸検査 組立・開先検査 製品検査 建方検査

(4) 接合部の溶接は下記によること
 平成12年度建設省告示第1464号第2号イ、ロ
 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱
 日本建築学会「溶接作業標準、同解説I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」
 日本建築学会「溶接工事技術指針 工事現場施工編」

(5) 接合部の検査
 溶接部の検査 (検査結果は後日工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数				備考
		社内	第三者	工事監理者		
<input type="checkbox"/> 突合せ溶接部 <input type="checkbox"/>	外観検査※	100	30	%	%	※平成12年建設省告示 第1464号第二号による (目視及び計測)
	超音波探傷検査	100	30	%	%	
	内質検査 (注)			%	%	
	マクロ試験・その他			%	%	
<input type="checkbox"/>	外観検査 (※)			%	%	

第三者検査機関名 工事監理者が指定する第三者検査機関

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

注1) 現場溶接部については原則として第三者による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと
注2) 知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事に報告すること

高力ボルトの検査
軸力導入試験 要 否 高力ボルトすべり係数試験 要 否
一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、供回り等の異常がないことを確認すること
 トルシア形高力ボルトは二次締め後、ピンテールが破断していることを確認する。

(6) 防錆塗装
 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。
(ウレタン塗装部はJIS K 5659)
錆止めペイントは、 JIS K 5621 JIS K 5674 を使用して、4つ星2回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。
 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料
 別図 (意匠図: 耐火リスト) による

7. 設備関係

設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
 エレベーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。
 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。設ける場合は設計者の承認を得ること
 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上とする。

8. その他

諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

壁式鉄筋コンクリート配筋標準図(1)

1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 記号
 d: 異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D: 部材の成 R: 直径
 @: 間隔 r: 半径 CL: 中心線 L0: 部材間の内法距離 h0: 部材間の内法高さ
 ST: あばら筋 HOOP: 帯筋 S. HOOP: 補強帯筋 φ: 直径

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折曲げ角度90°はスラブ筋・帯筋の末端部、またはスラブと同時に打ち込むT形およびL形梁のキャップタイにのみ用いる。
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	
折曲げ寸法Rは、SR235は3d以上、SD295A、SD295B、SD345のD16以下は、3d以上、D19以上は4d以上				

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SD295A SD295B、SD345	D16以下 D19以上	3d以上 4d以上
	上記以外の鉄筋	SD295A SD295B、SD345	D16 D19~D25	4d以上 6d以上

(3) 鉄筋の定着及び重ね継ぎ手の長さ

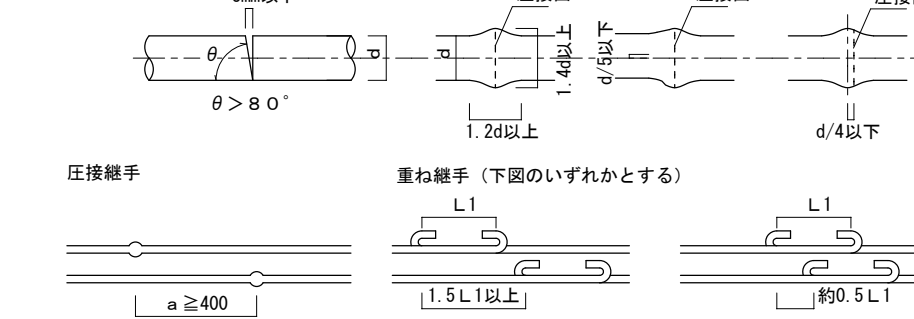
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (kg/cm ²)	定着の長さ			特別の定着及び重ね継ぎ手の長さ (L1)
		一般 (L2)	下ば筋 (L3)		
SD295A SD295B SD345	210 225 240 180	3.5d または 2.5dフックつき 4.0d または 3.0dフックつき	2.5d または 1.5dフックつき	1.0d かつ 1.5cm 以上	4.0d または 3.0dフックつき 4.5d または 3.5dフックつき

コンクリートは普通 $F_c = 180\text{kg/cm}^2$ 以上240kg/cm²以下、軽量 $F_c = 180\text{kg/cm}^2$ 以上225kg/cm²以下

継手

1. 末端フックは、定着及び重ね継ぎ手の長さに含まない。
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継ぎ手は、細い方の鉄筋の継ぎ手長さとする。

ガス圧接形状



(4) かぶり厚さ(単位mm)

構造部分	最小かぶり厚さ(mm)	設計かぶり厚さ(mm)
屋根スラブ・床スラブ・片持ちスラブ**・非耐力壁	20*	30*
耐力壁・壁梁・小梁・片持ち梁	30*	40*
土に接する耐力壁・壁梁・小梁・片持ち梁	40	50
基礎 (捨コンクリート部分を除く)	60	70

* 耐久性上有効な仕上げがない場合は、屋内・屋外にかかわらず10mm増しとする。
 又、軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
 ** 片持ちスラブ先端は、最小かぶり30mmとする。【8-(1)@参照】

(5) 鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上 粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上

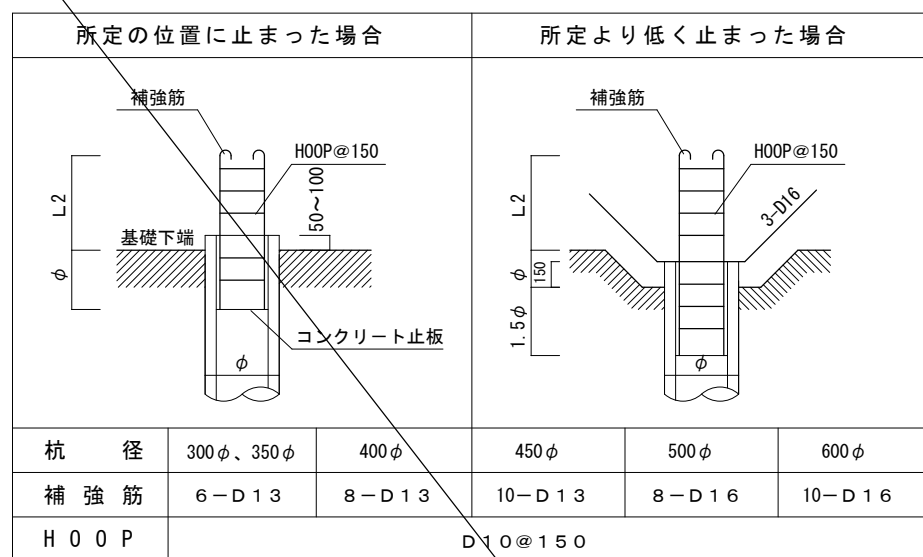
(6) 鉄筋のフック (a~fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

1. 丸鋼
2. あばら筋、帯筋
3. 煙突の鉄筋
4. 柱、梁 (基礎梁を除く) の出隅部分の鉄筋 (右図参照)
5. 単純梁の下端筋
6. その他、本配筋標準に記載する箇所

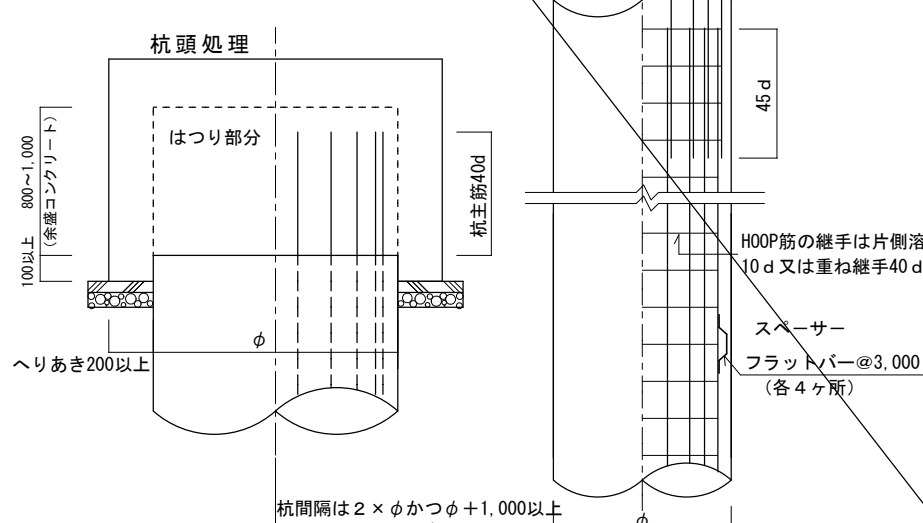
3. 杭

(設計図面に記載なき場合は監理者と協議の上、下図にとり施工すること。)

(1) PHC杭の全てに補強を行う

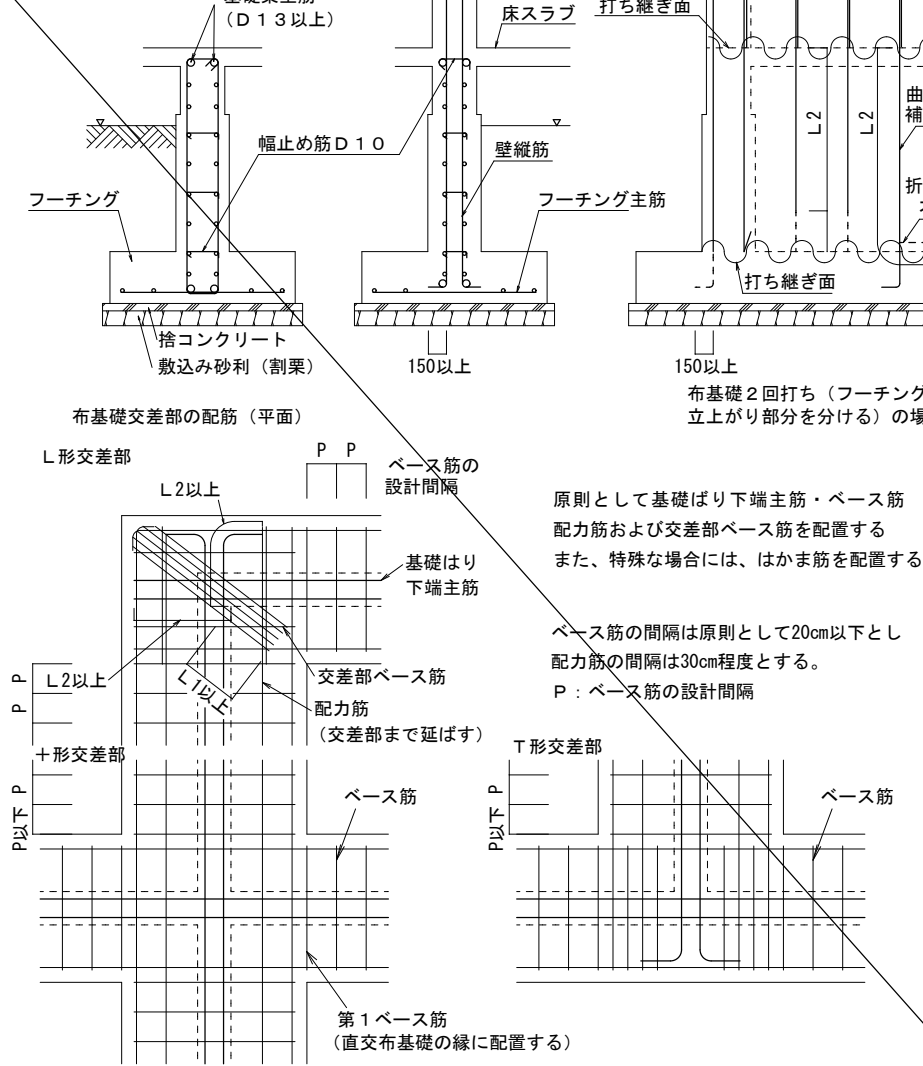


(2) 現場打ちコンクリート杭

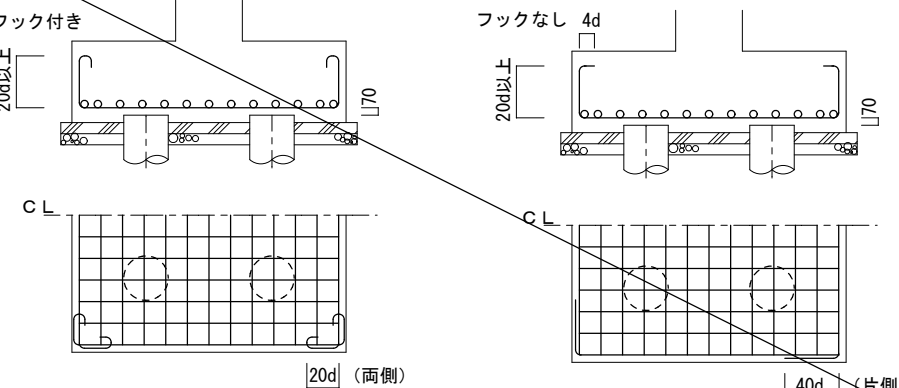


4. 基礎

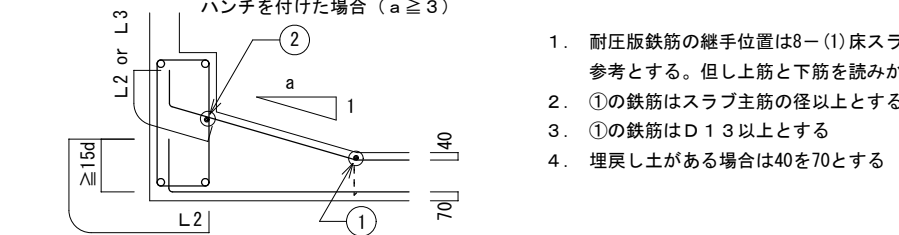
(1) 布基礎



(2) 杭基礎

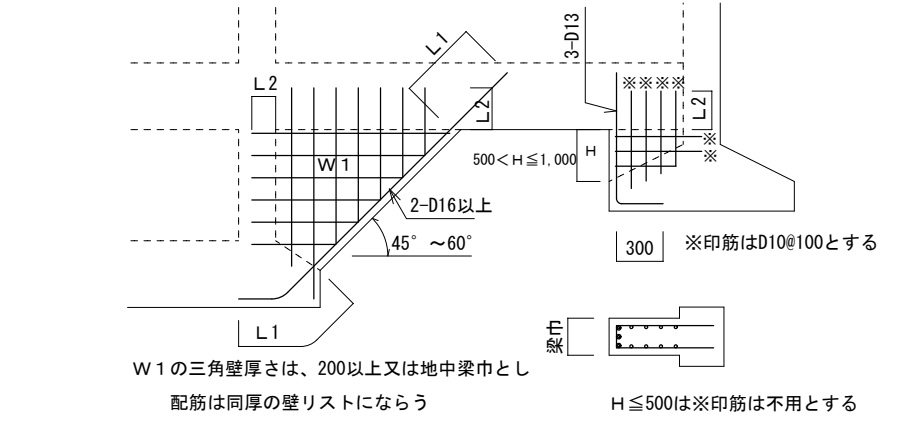


(3) ペタ基礎



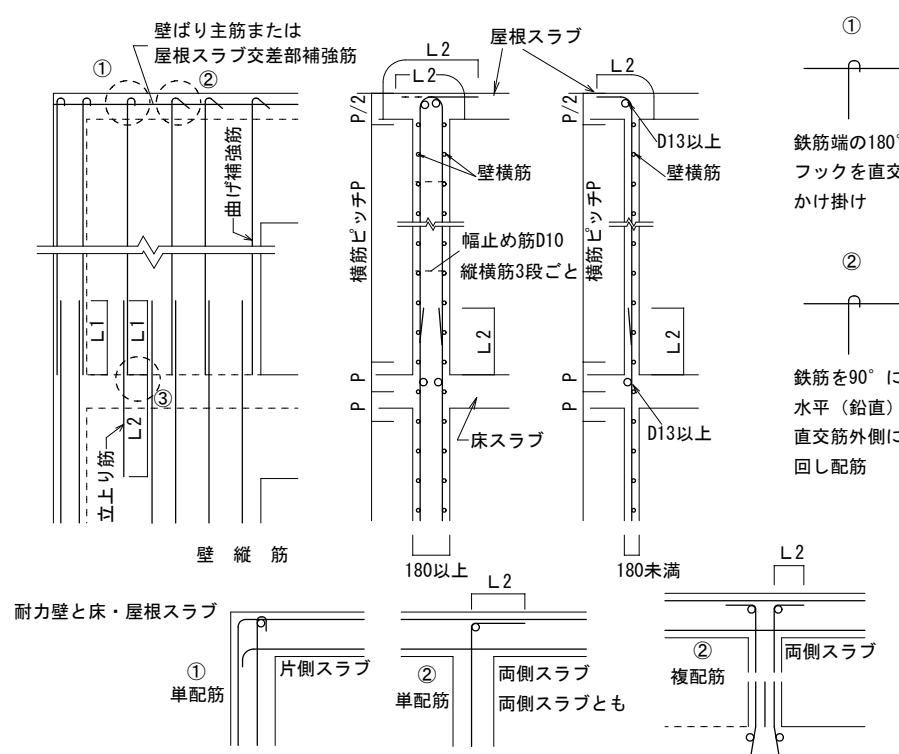
1. 耐力鉄筋の継手位置は3-(1)床スラブを参考とする。但し上筋と下筋を読みかえる
2. ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
3. ①の鉄筋はD13以上とする
4. 埋戻し土がある場合は40を70とする

(4) 基礎接合部の補強

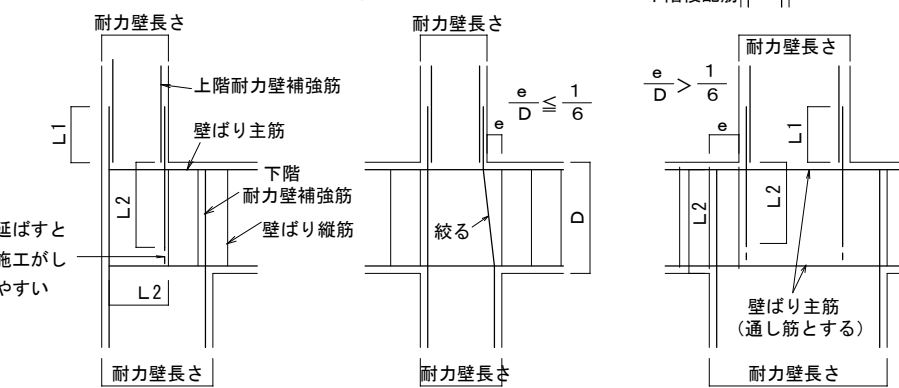


5. 耐力壁

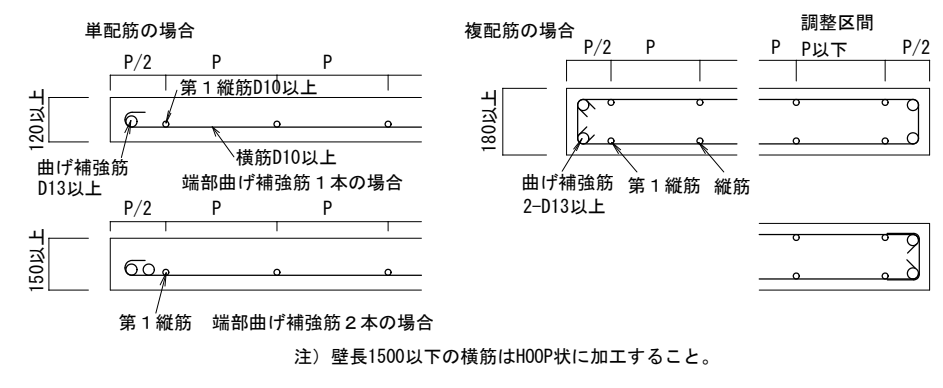
(1) 縦筋・曲げ補強筋・縦補強筋の定着



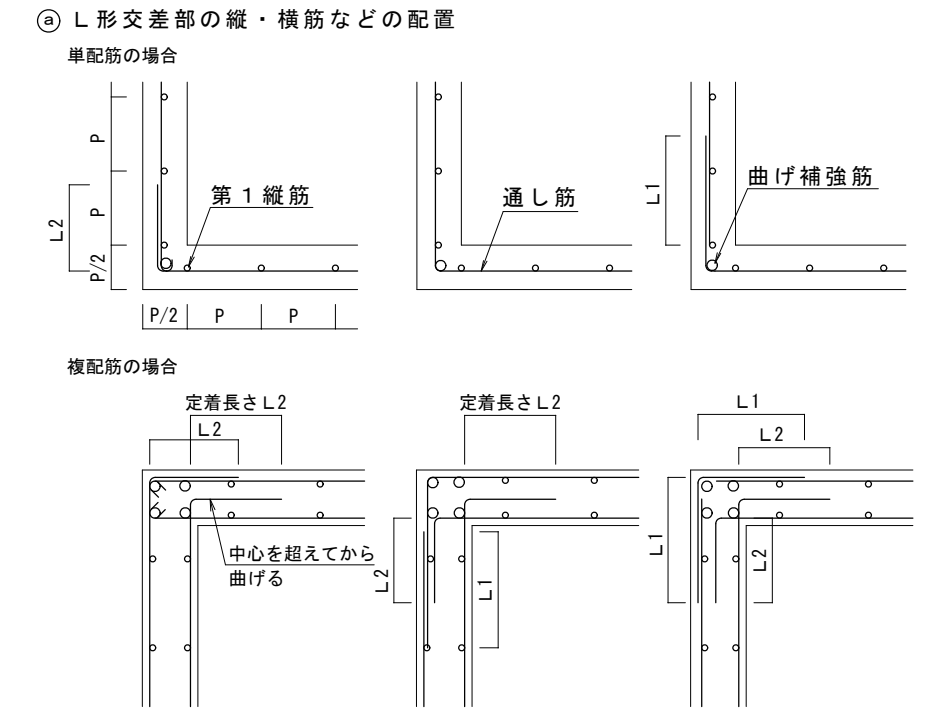
(2) 上・下階耐力壁の各種配筋



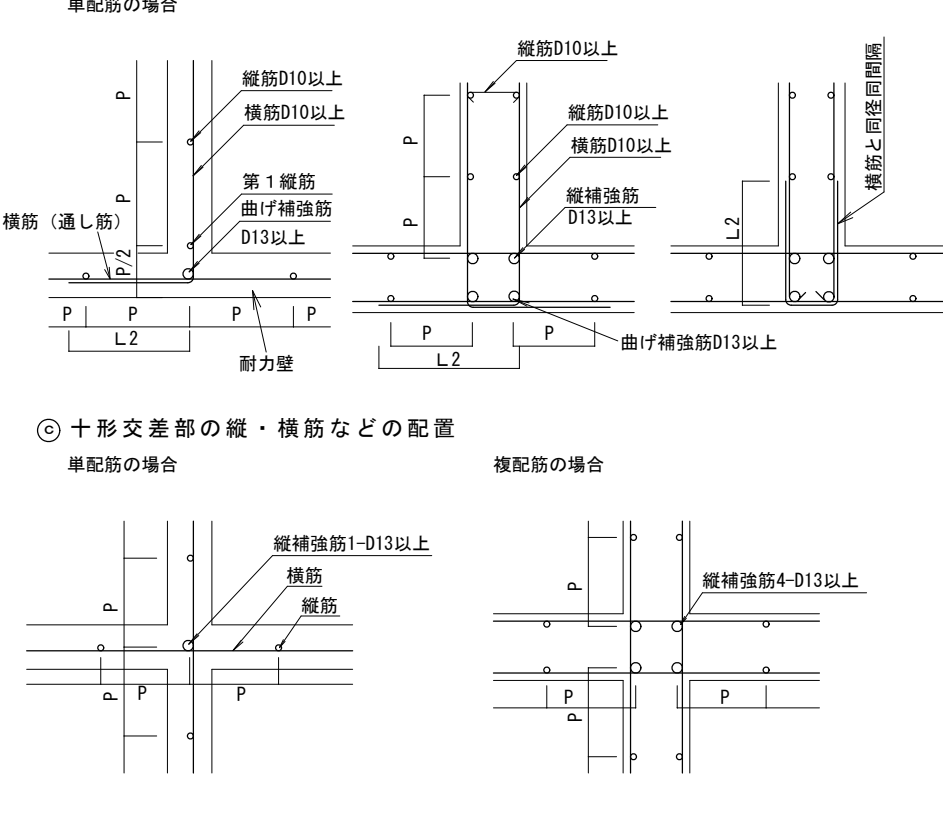
(3) 耐力壁の縦・横筋の配置



(4) 耐力壁が交差する場合(平面)



(5) 耐力壁が交差する場合(断面)



6. 使用可能な鉄筋の最大径(標準)

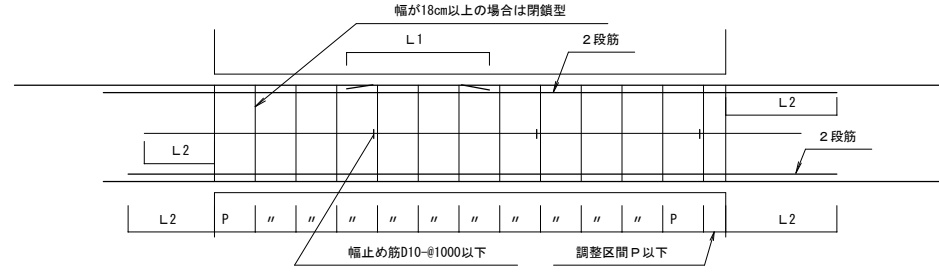
部位	耐力壁	壁がりょう小梁	布基礎基礎梁	スラブ	非耐力壁	塀
壁式鉄筋コンクリート造	D22	D22	D25	D16	D16	D16

壁式鉄筋コンクリート配筋標準図(2)

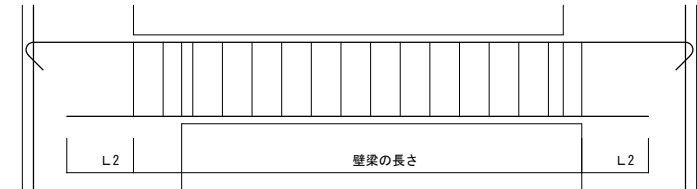
L=鉄筋コンクリート構造
標準図(1)の2-(3)による。

7. 壁梁、小梁

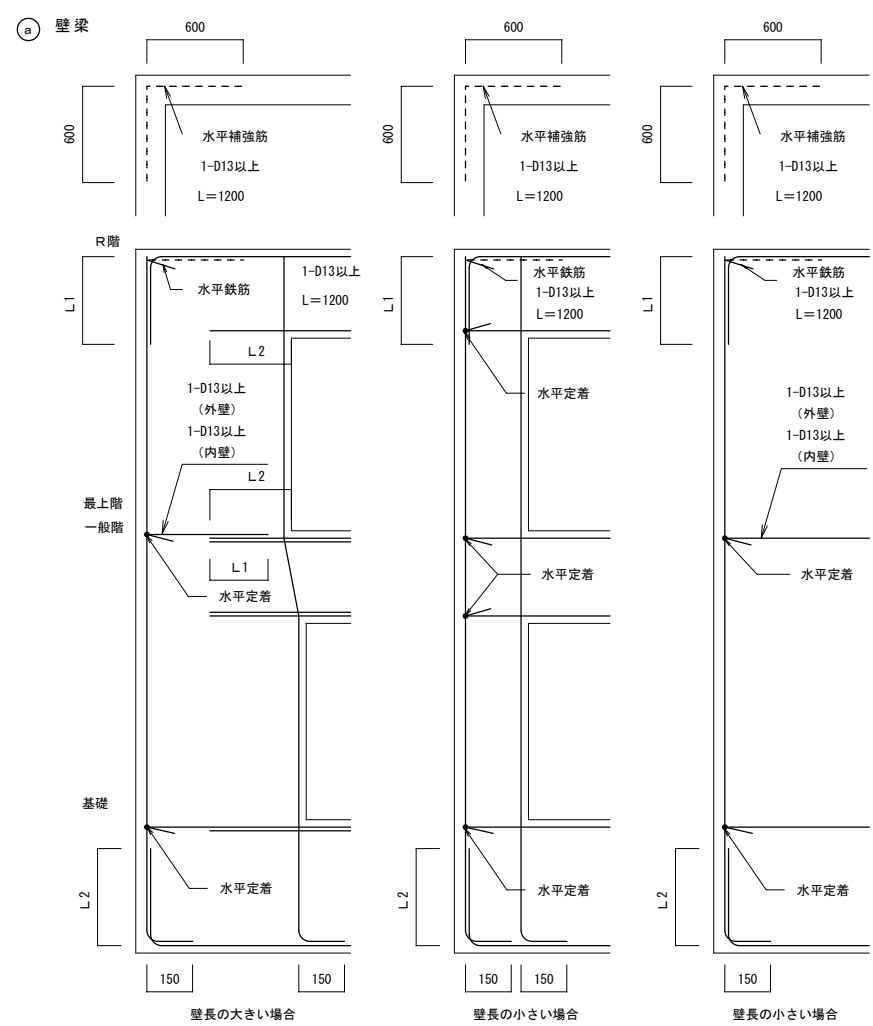
(1) 壁梁の標準配筋図



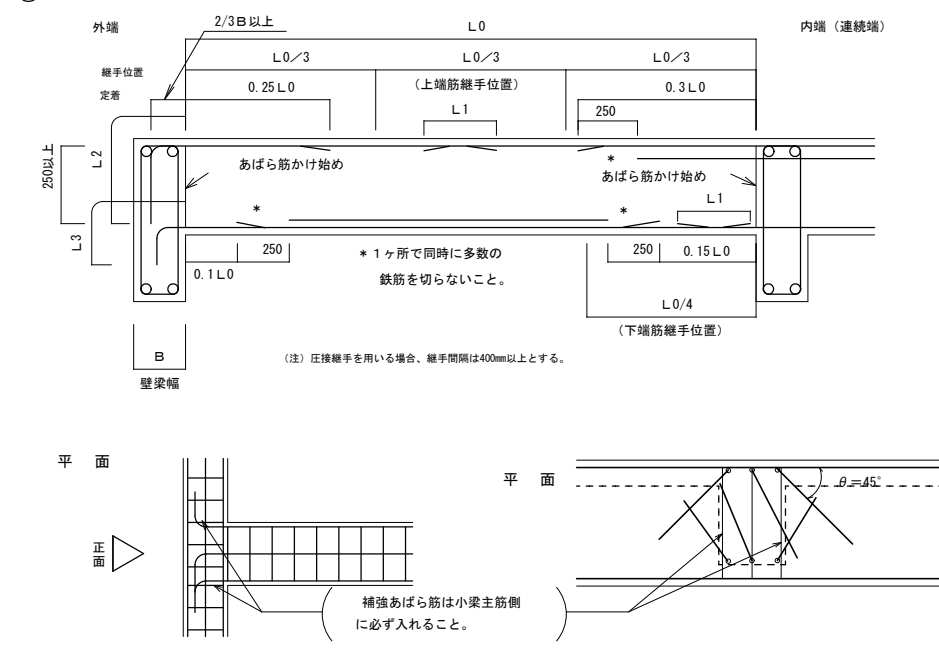
(2) 壁梁の範囲



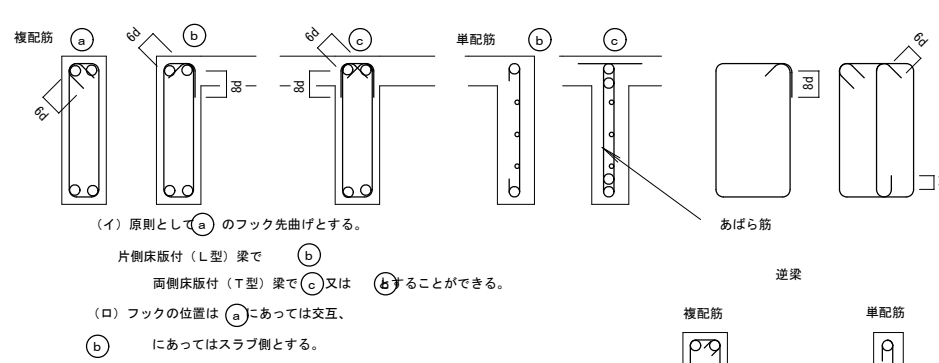
(3) 定着



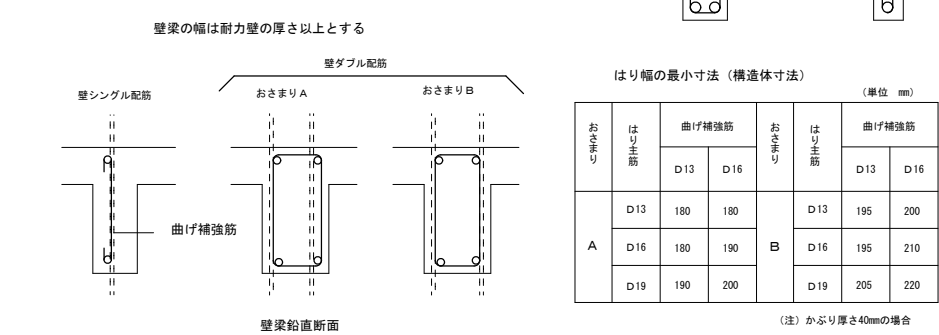
(4) 小梁の定着・継手位置およびトップ筋長さ



(4) あばら筋の型

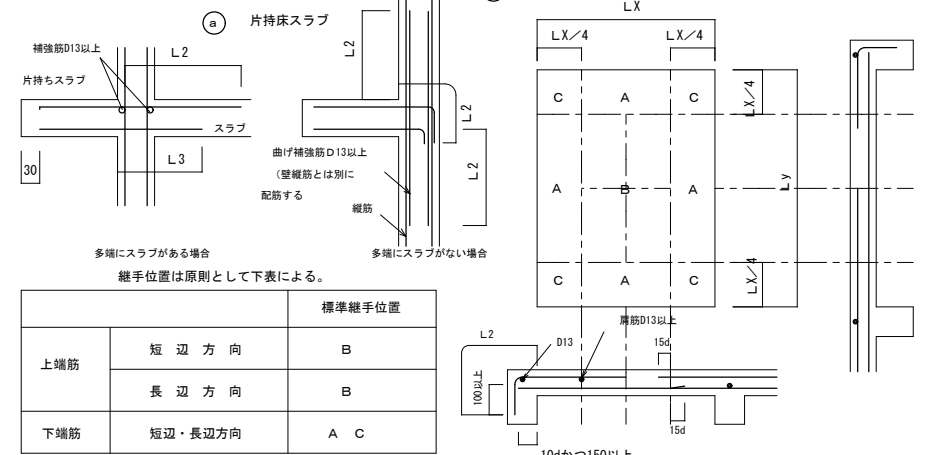


(5) 幅止め筋の本数、加工

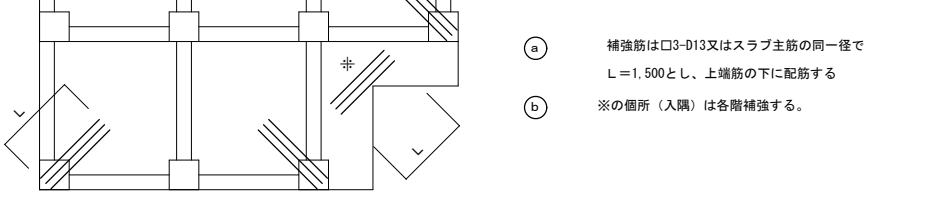


8. 床板

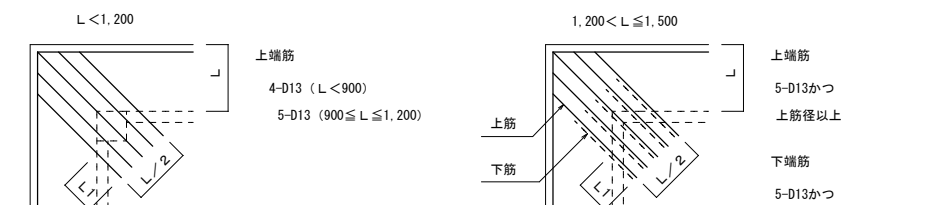
(1) 定着及び継手



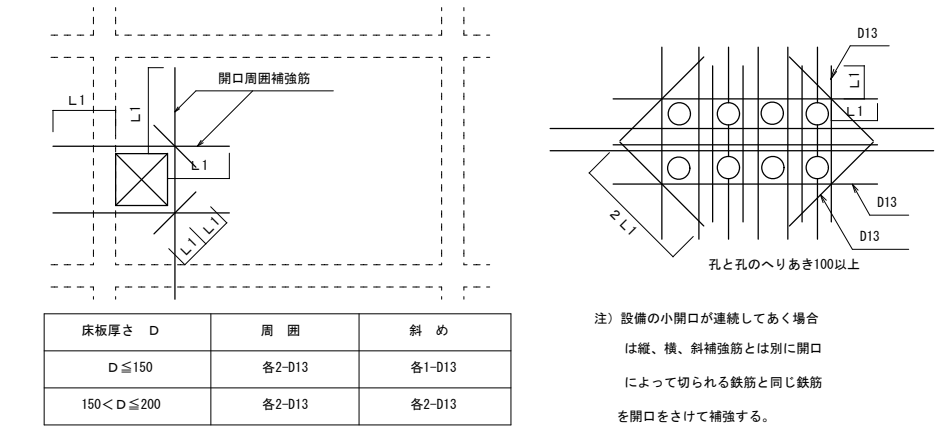
(2) 屋根スラブの補強



(3) 片持ちスラブの出隅部補強

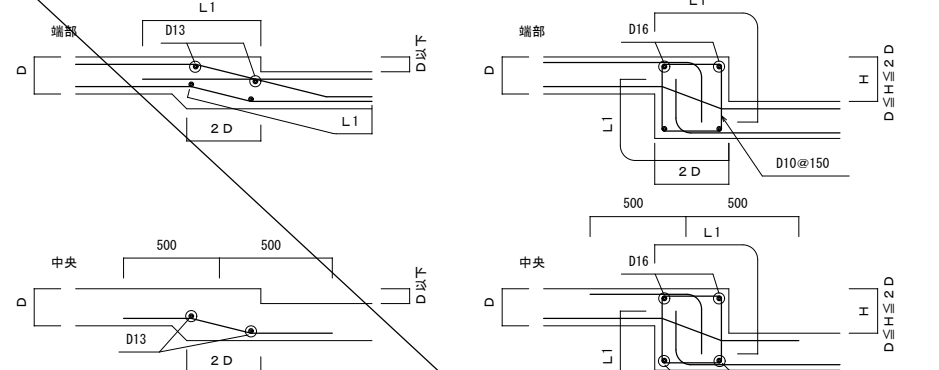


(4) 床板開口部補強

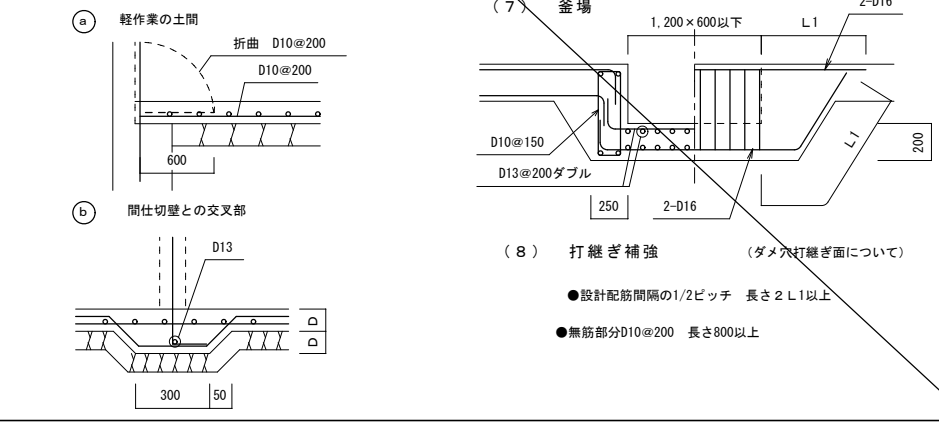


床板厚さ D	周 囲	斜 め
D ≤ 150	各2-D13	各1-D13
150 < D ≤ 200	各2-D13	各2-D13

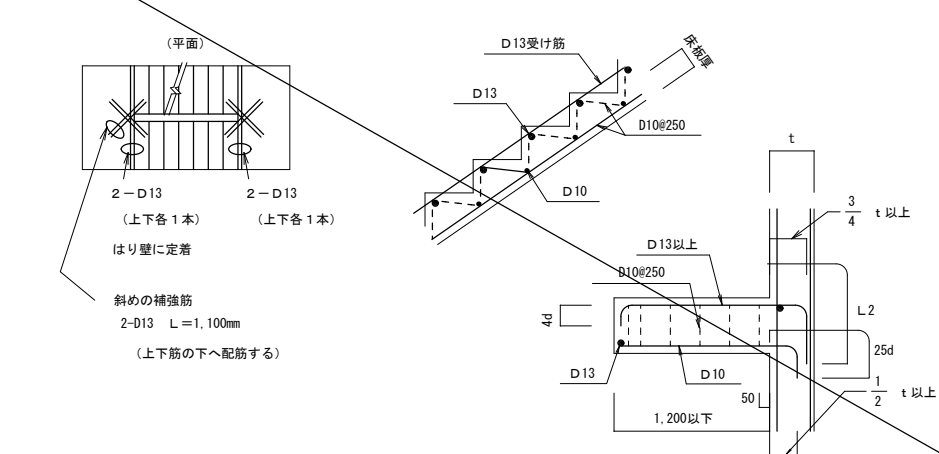
(5) 床板段差



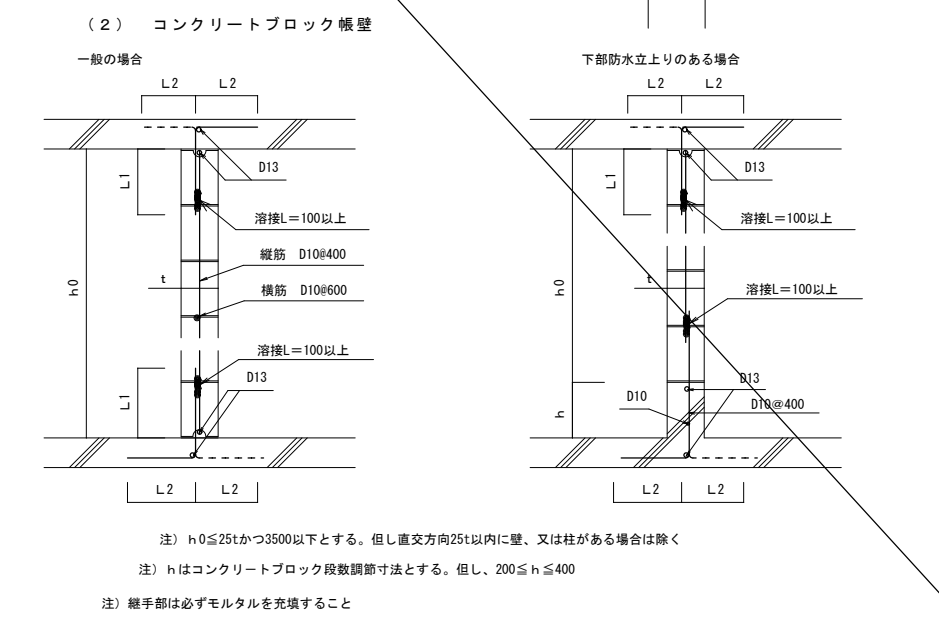
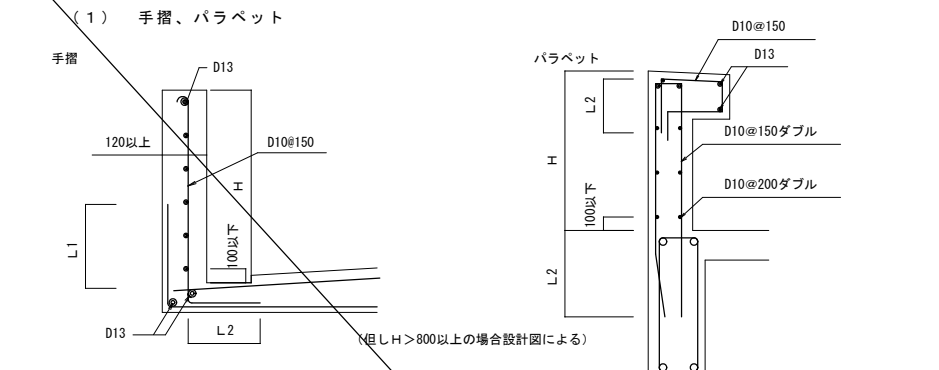
(6) 土間コンクリート



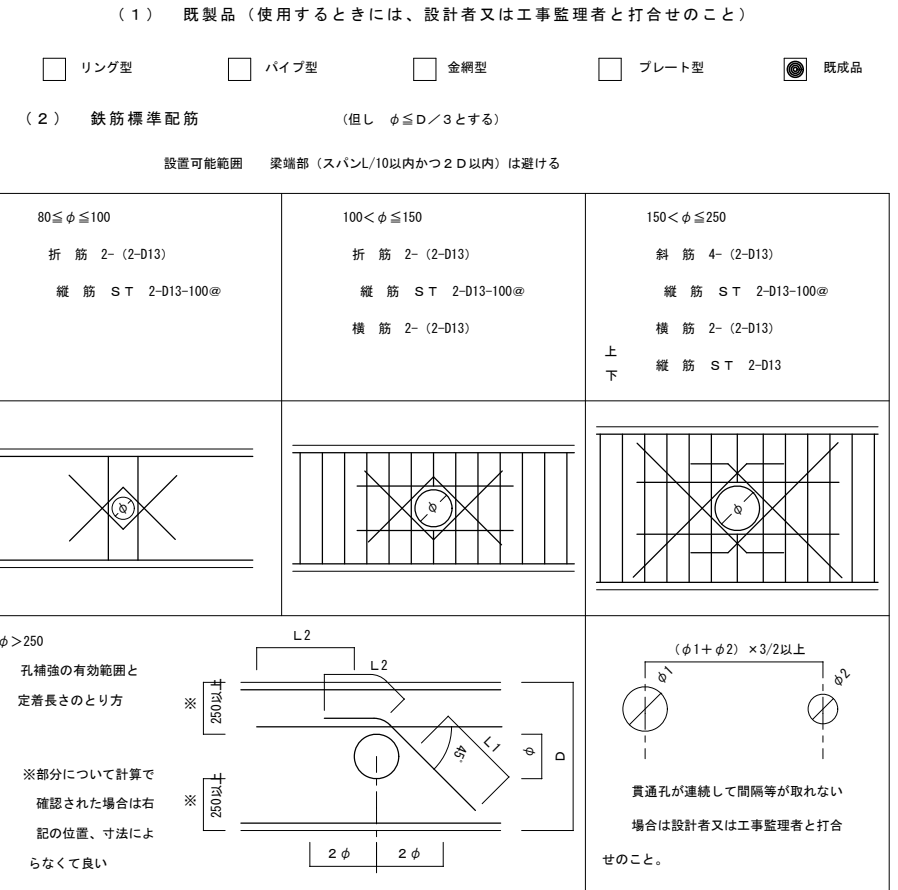
9. 階段



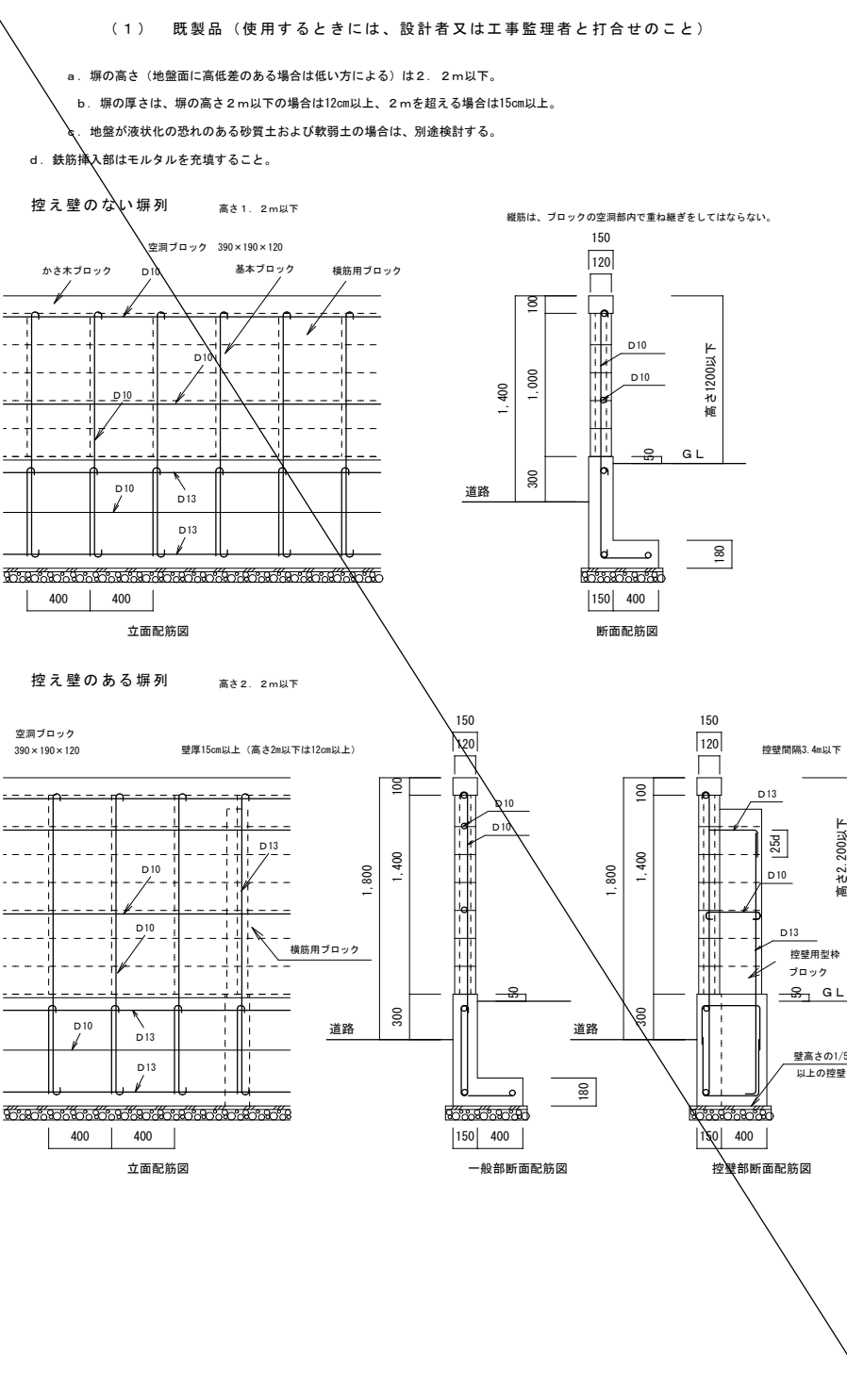
10. その他

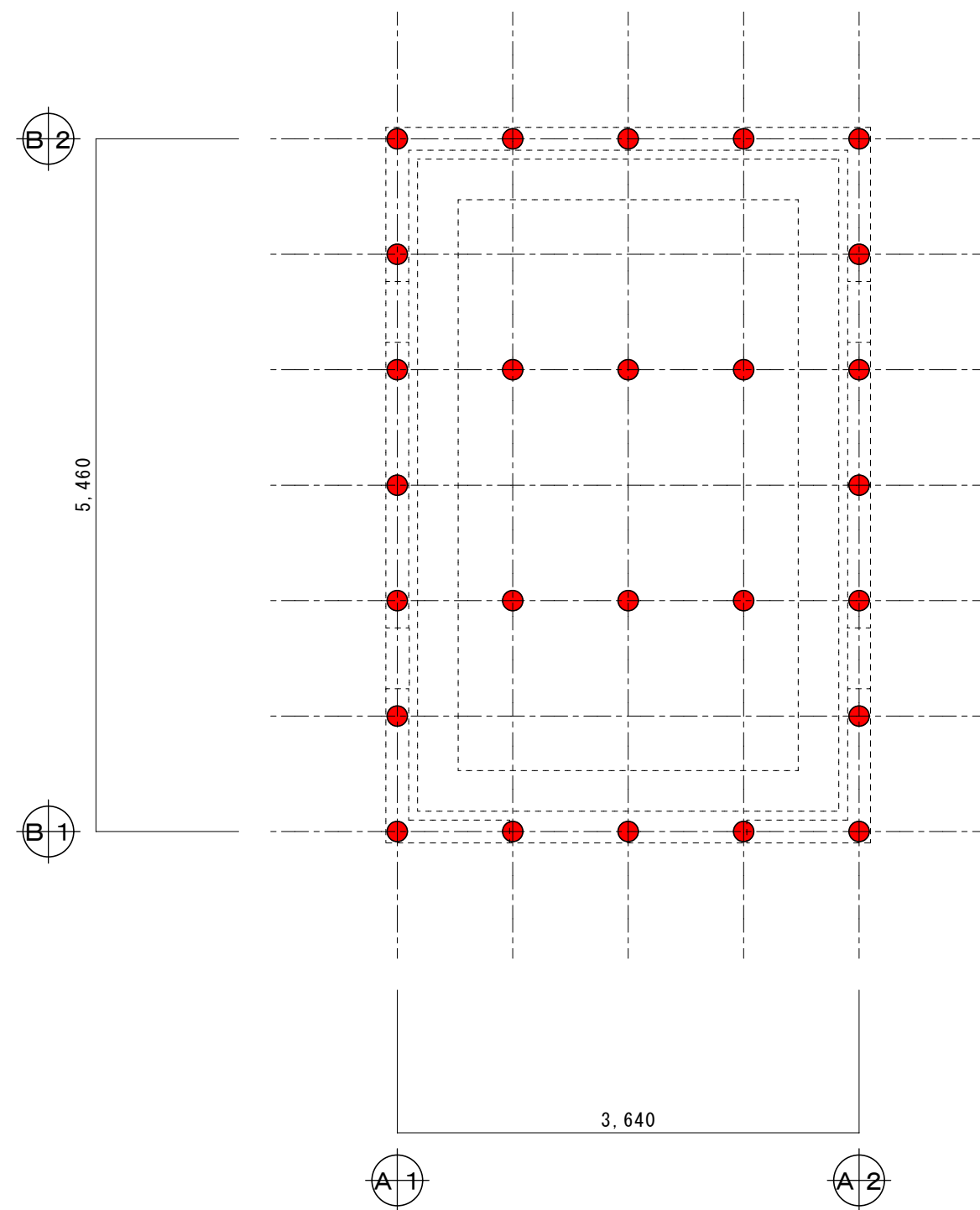


11. 梁・壁柱 貫通孔補強



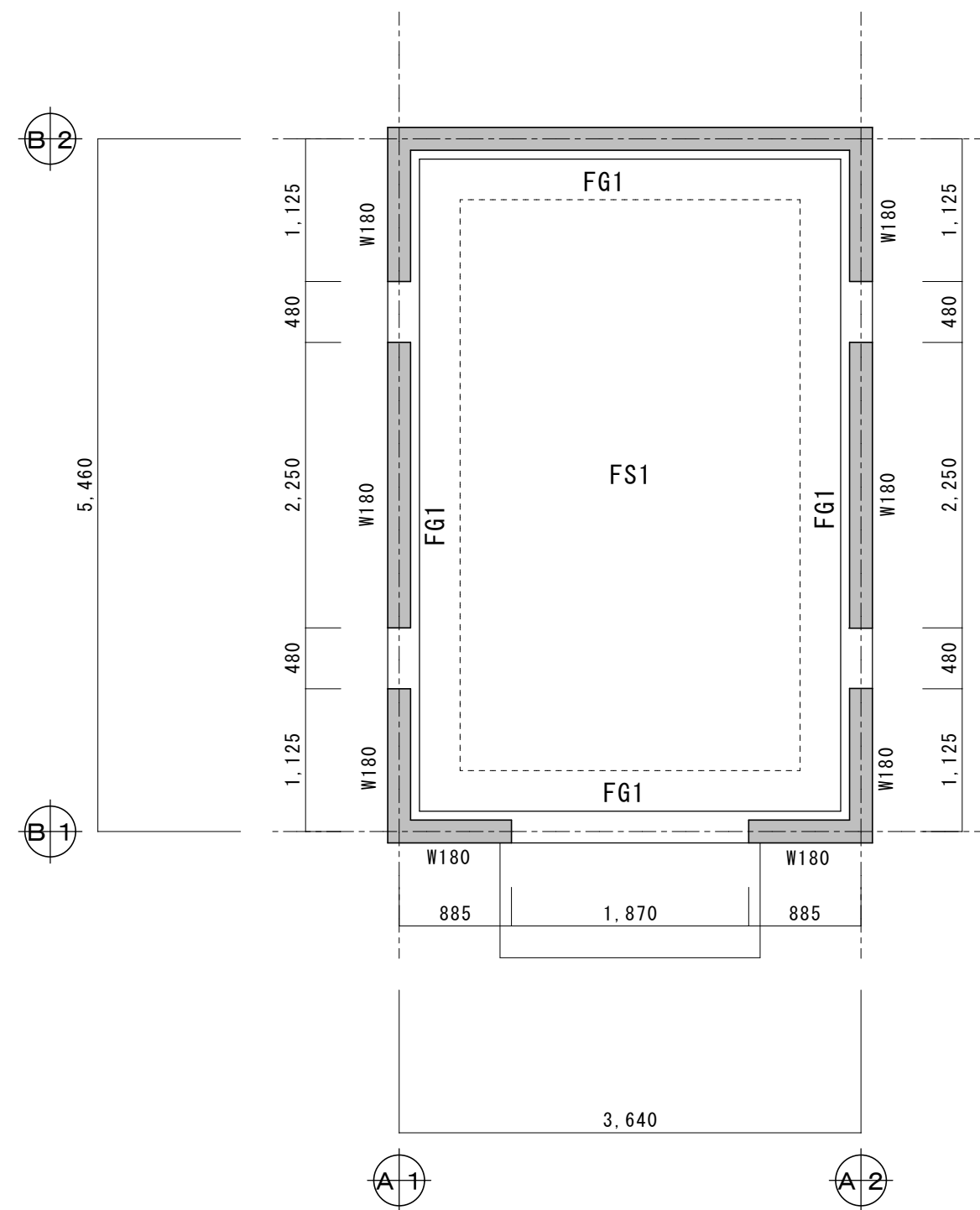
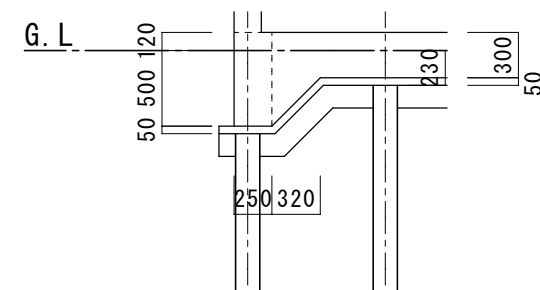
12. コンクリートブロック塀



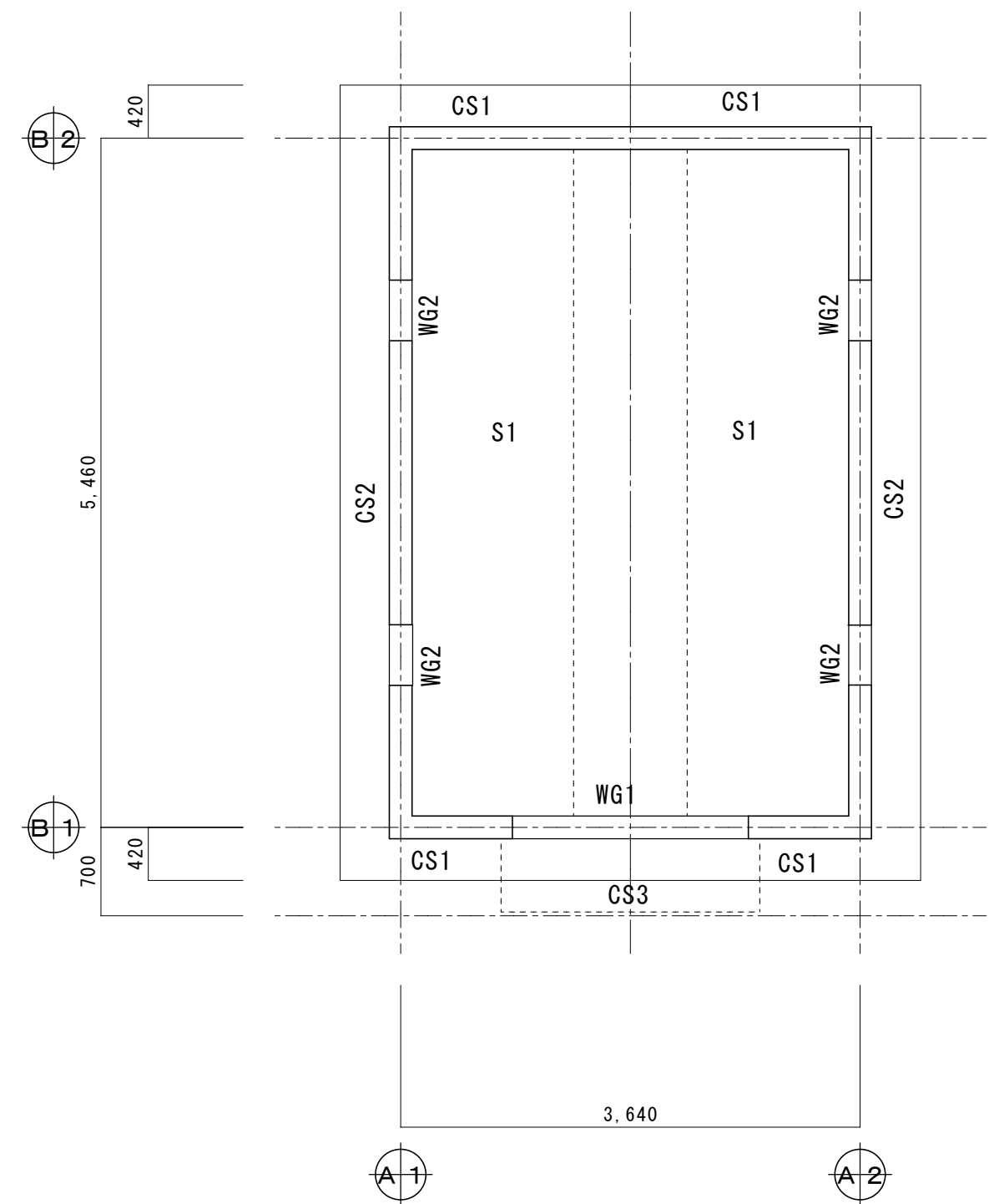


杭 伏 図 1 / 5 0

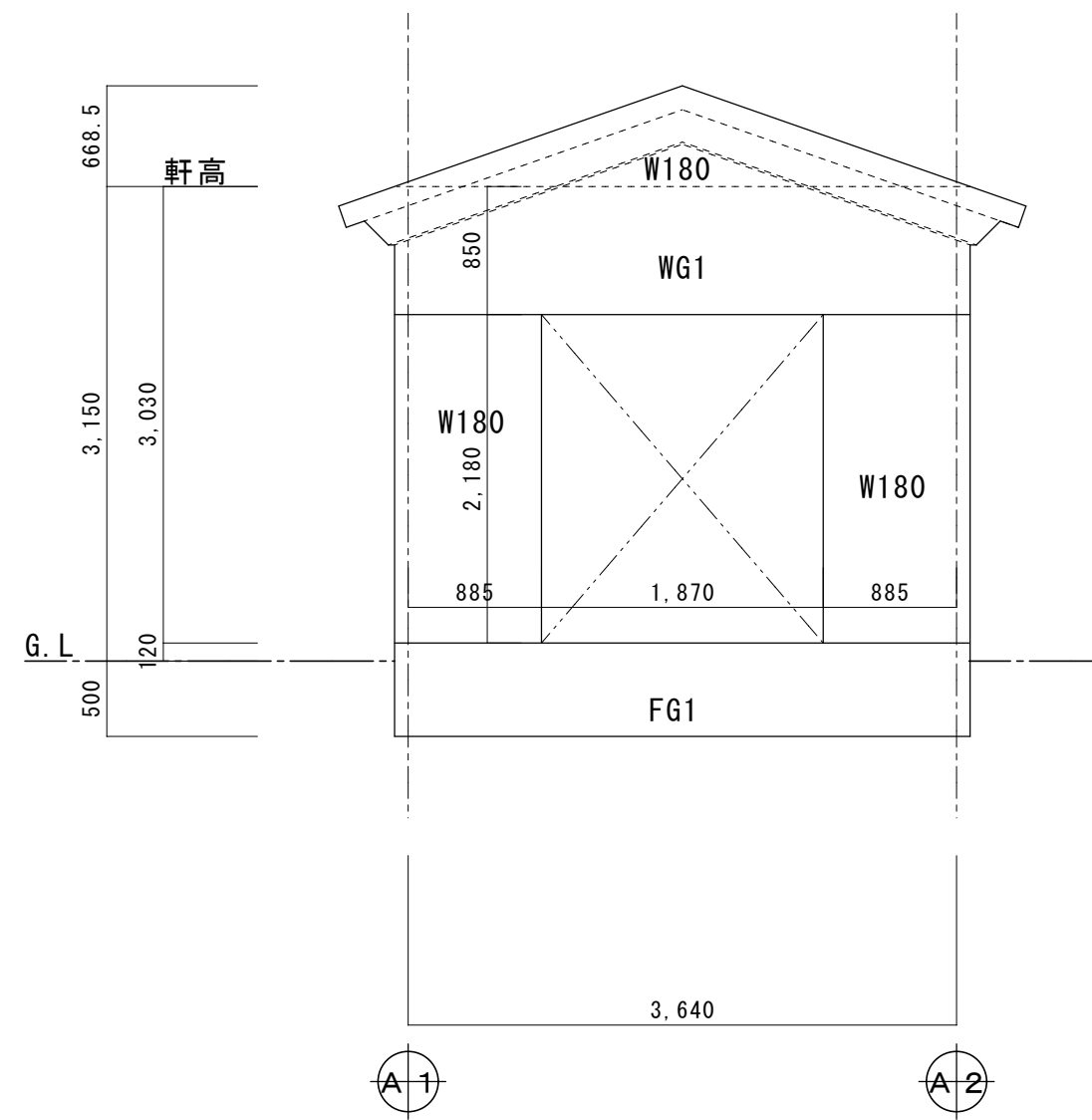
● 環境パイルS 同等工法 120Φ L=8.0m 26本
基礎下 50KN/m² (べた基礎)



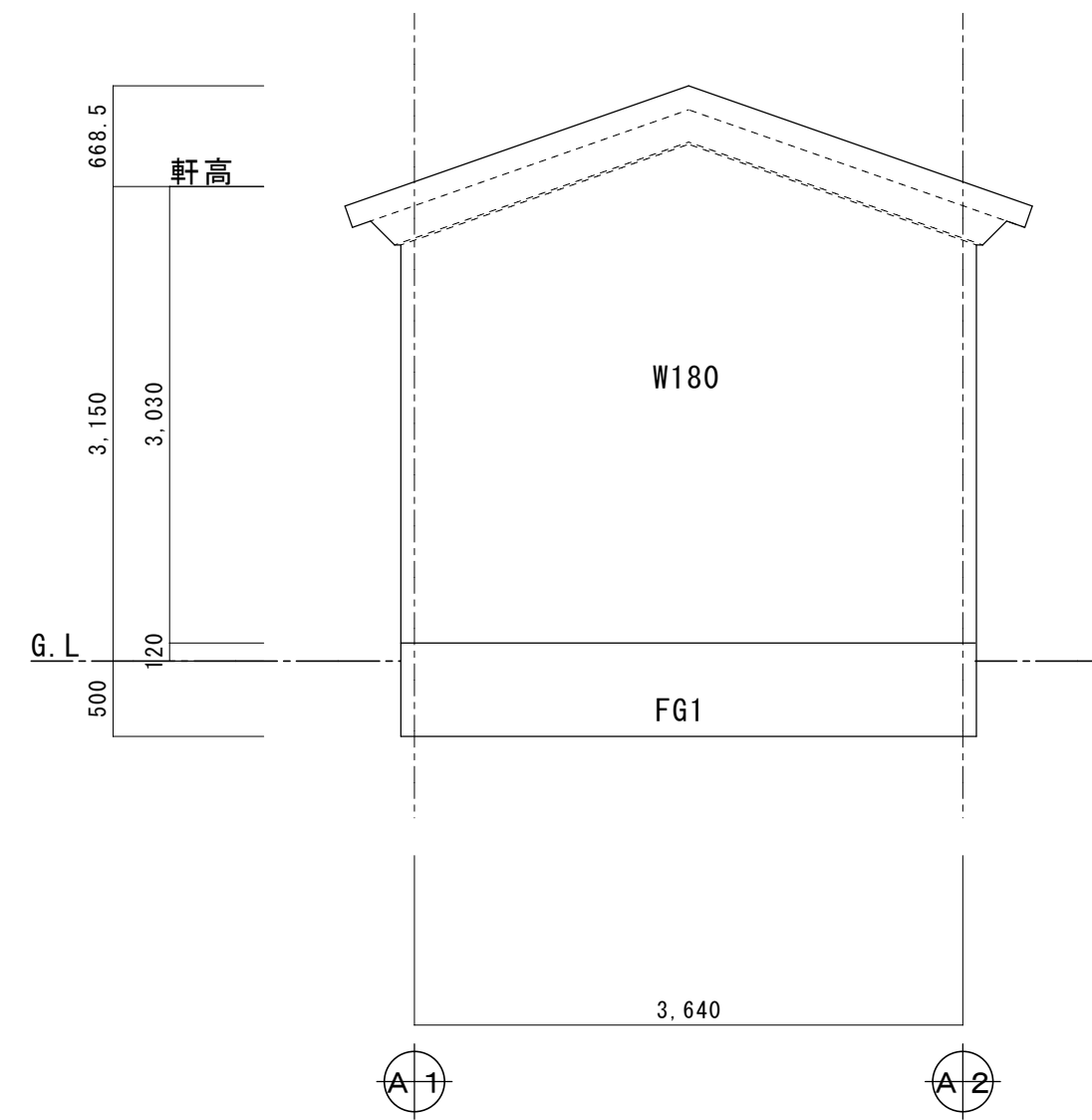
基 礎 伏 図 1 / 5 0



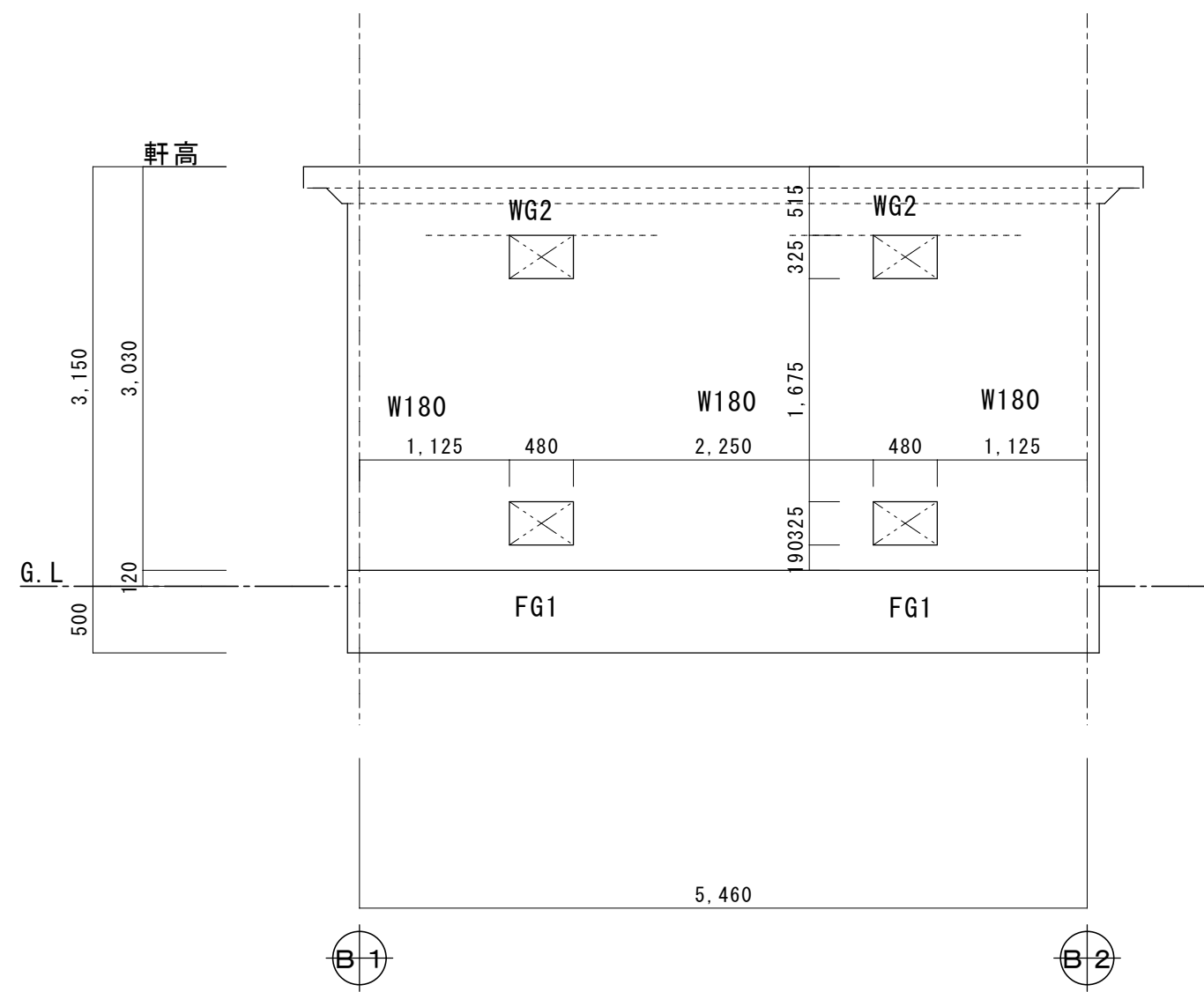
R 階 床 梁 伏 図 1 / 5 0



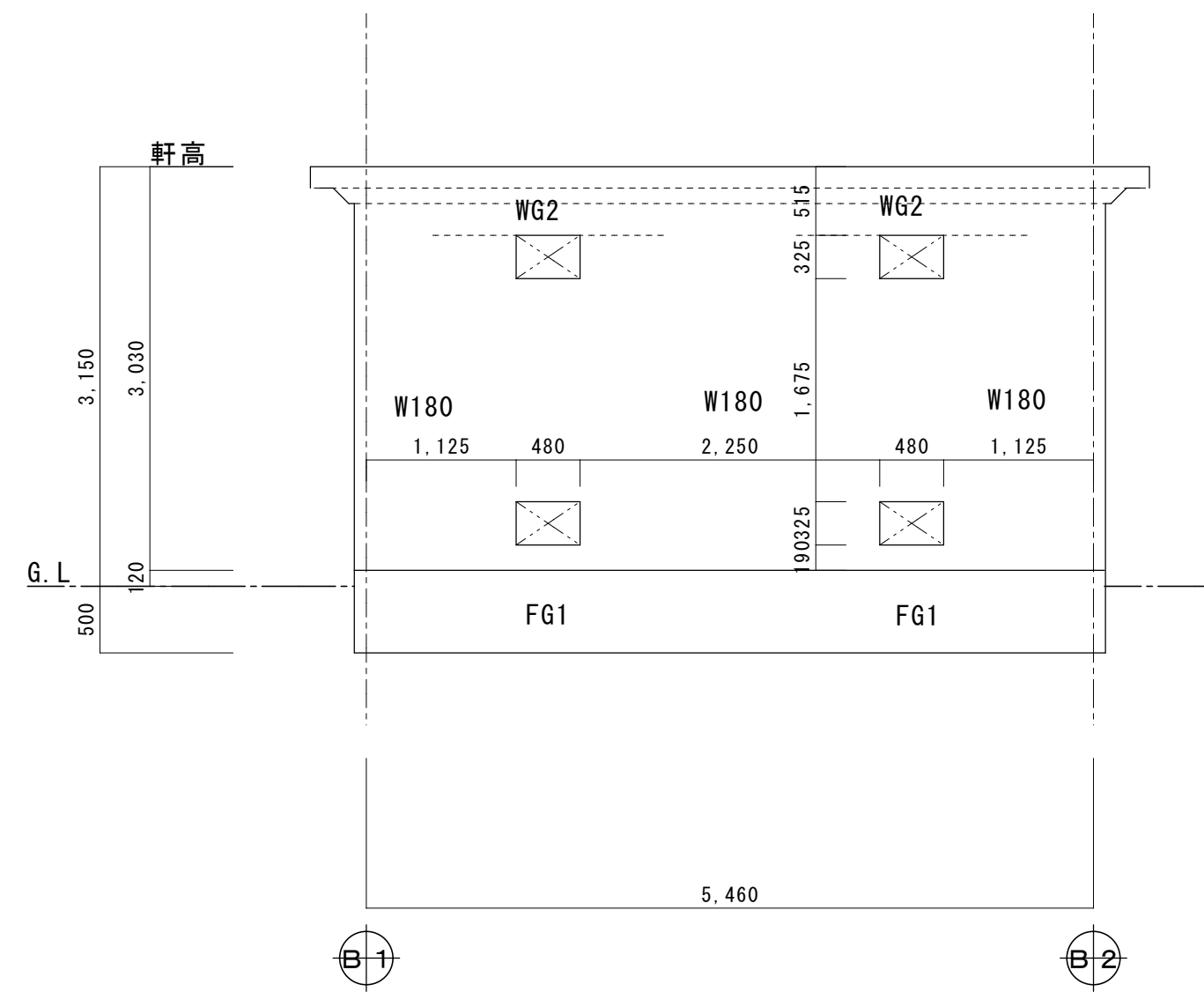
B 1 通り軸組図 1 / 50



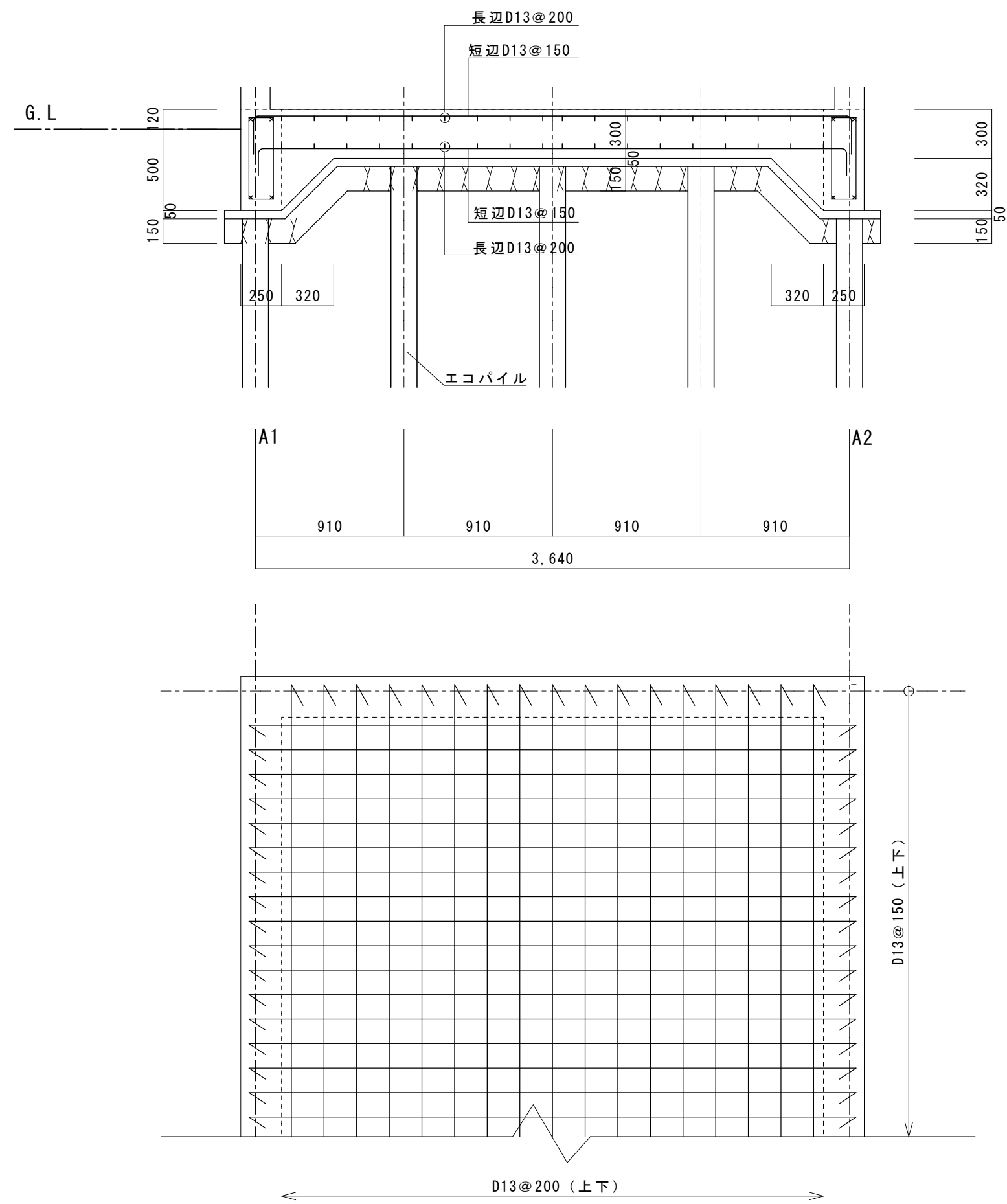
B 2 通り軸組図 1 / 50



A 1 通り軸組図 1 / 50



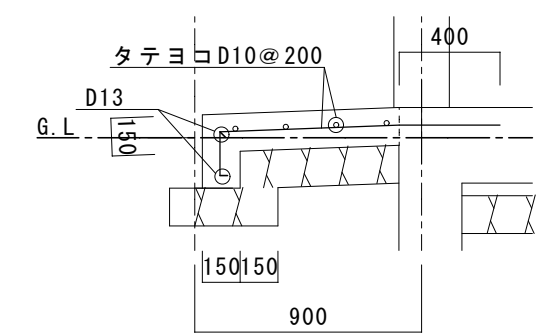
A 2 通り軸組図 1 / 50



基礎リスト 1/30

地中梁リスト 1/30

符 号	FG 1
位 置	全断面
断 面	
B × D	250 × 620
上 端 筋	2-D16
下 端 筋	2-D16
スタ-ラップ	D10@200
腹 筋	2-D10
巾 止 筋	D10@1000



ポ-チ配筋図 1/30

壁梁リスト 1/30

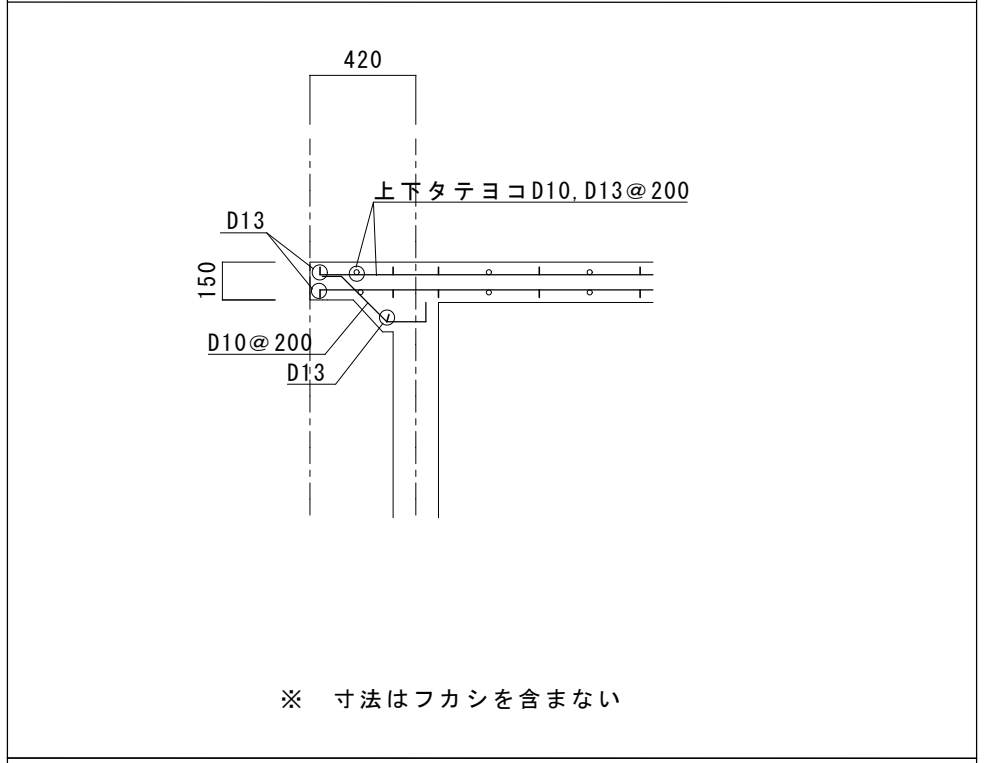
符 号	WG 1	WG 2
位 置	全断面	全断面
R 階		
B x D	180 x 950	180 x 500
上端筋	2-D13	2-D13
下端筋	2-D13	2-D13
スターラップ	D10@200	D10@200
腹筋	8-D10	4-D10
巾止筋	D10@1000	D10@1000

壁リスト 1/30

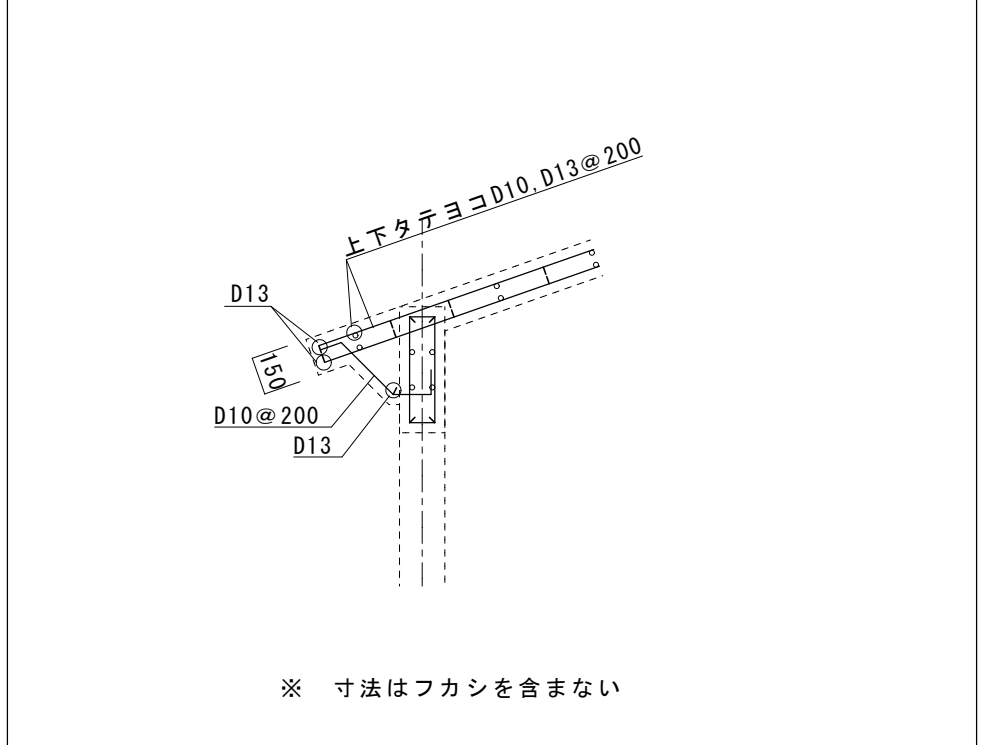
※ 特記なき限り 巾止め筋 ← -D10@1,000

符 号	W180	開口補強筋
断 面		
タテ筋	D10-@200 ダブル	
ヨコ筋	D10-@200 ダブル	
開口補強筋 タテ	2-D13	a
開口補強筋 ヨコ	2-D13	b
開口補強筋 斜メ	2-D13	c

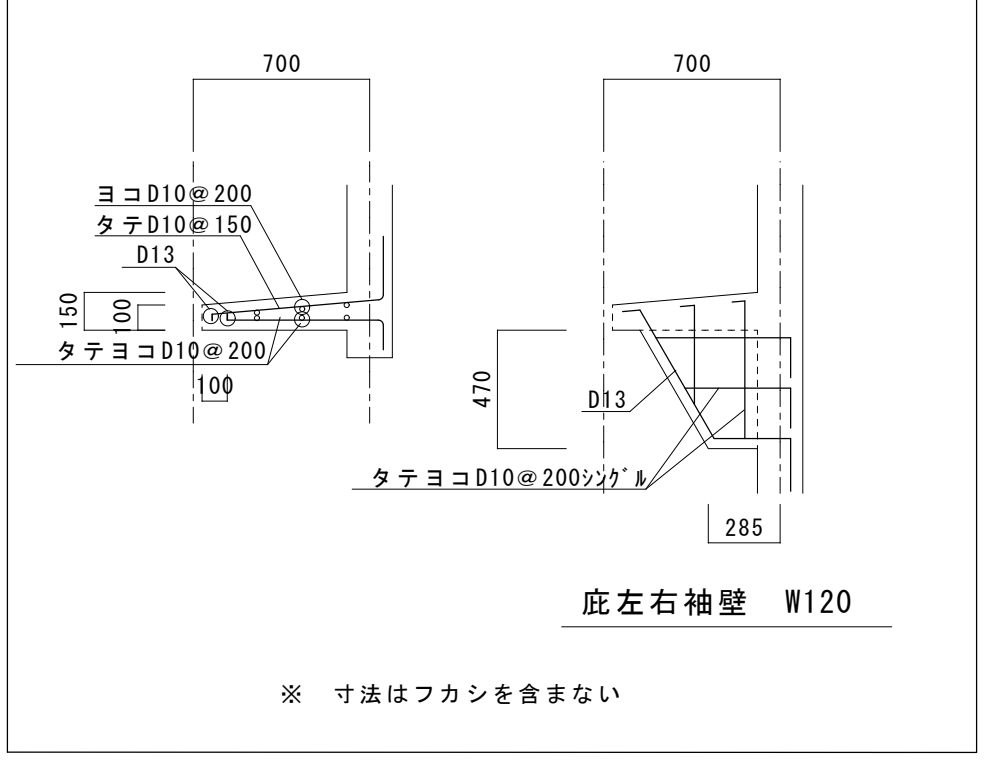
庇 (CS1) 配筋図



庇 (CS2) 配筋図



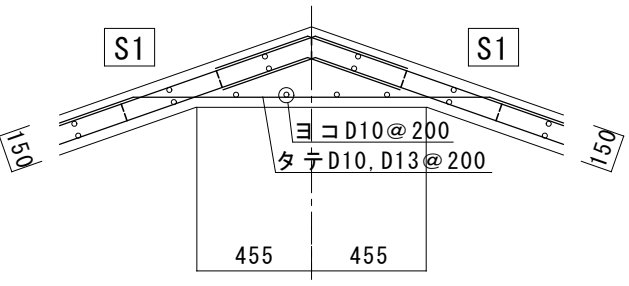
庇 (CS3) 配筋図



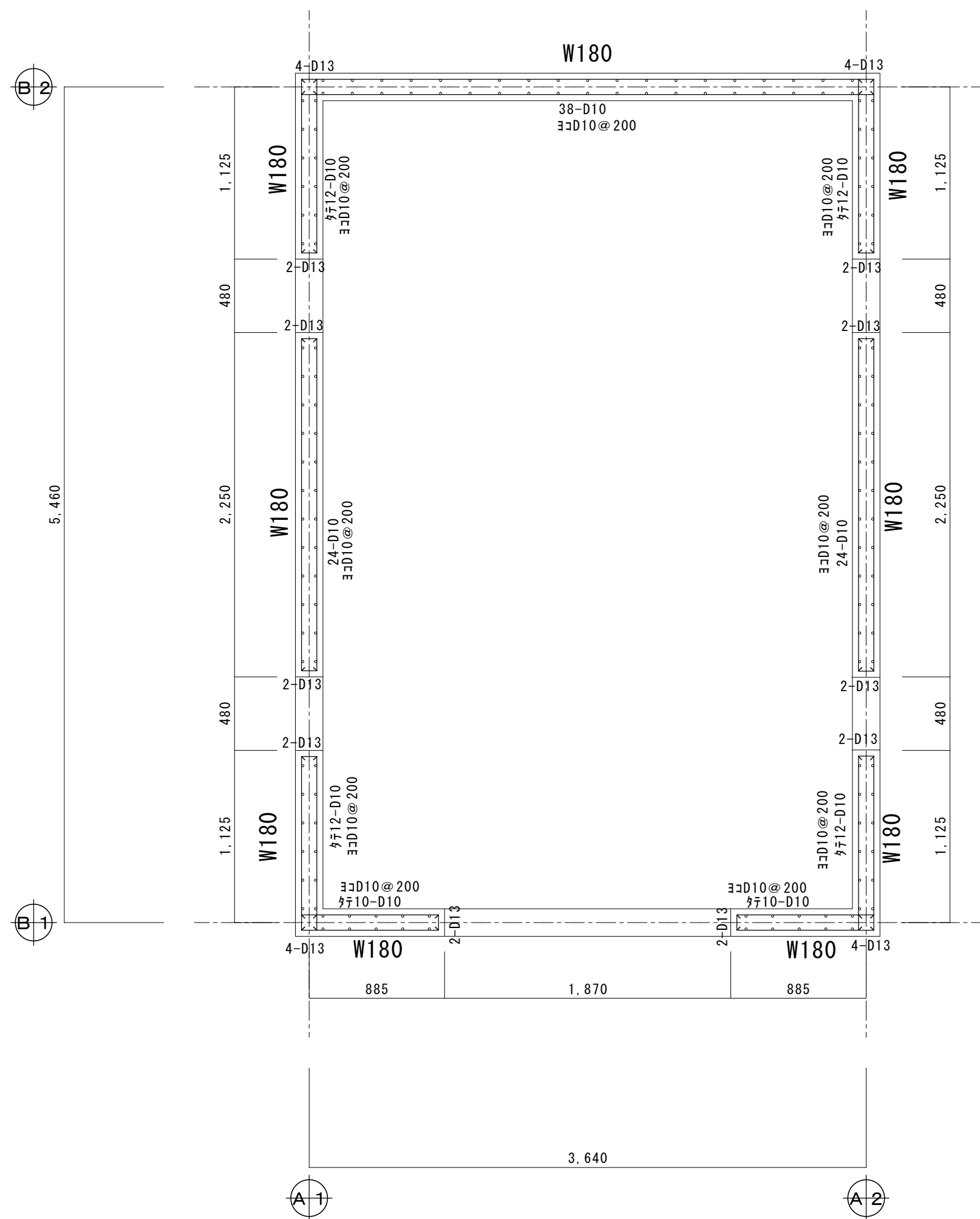
床版リスト

※ R階スラブは配筋標準図(2)8-(2)に従い隅部に補強筋を配筋する。
 ※ スラブフカシ厚、箇所は意匠図による。

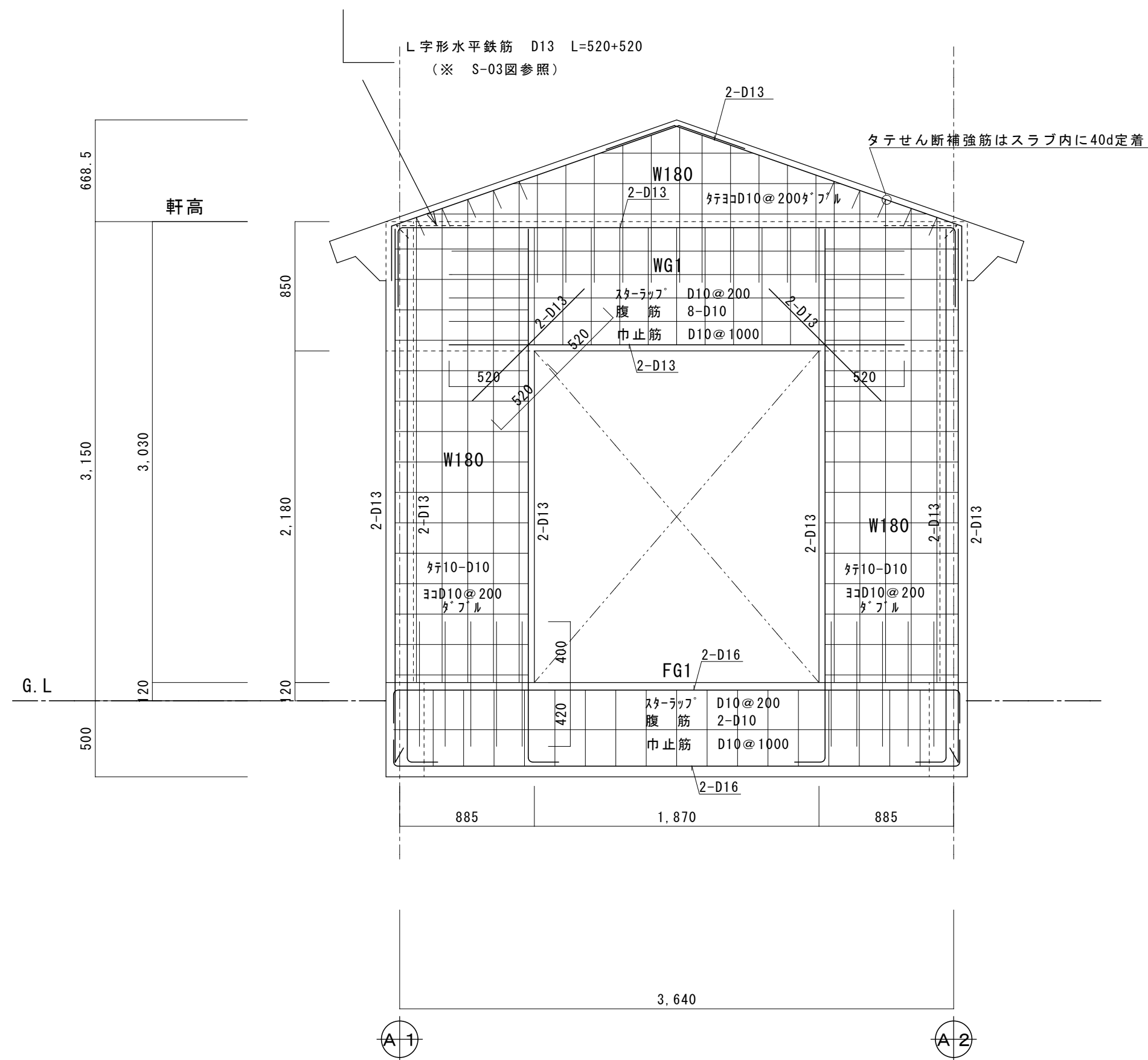
符 号	板 厚	位 置	短 辺 方 向	長 辺 方 向
S1	150	上筋	D13, D10@200	D13, D10@200
		下筋	D13, D10@200	D13, D10@200
CS1	150	上筋	D13, D10@200	D13, D10@200
		下筋	D13, D10@200	D13, D10@200
CS2	150	上筋	D13, D10@200	D13, D10@200
		下筋	D13, D10@200	D13, D10@200
CS3	100~150	上筋	D10@150	D10@150
		下筋	D10@200	D10@200



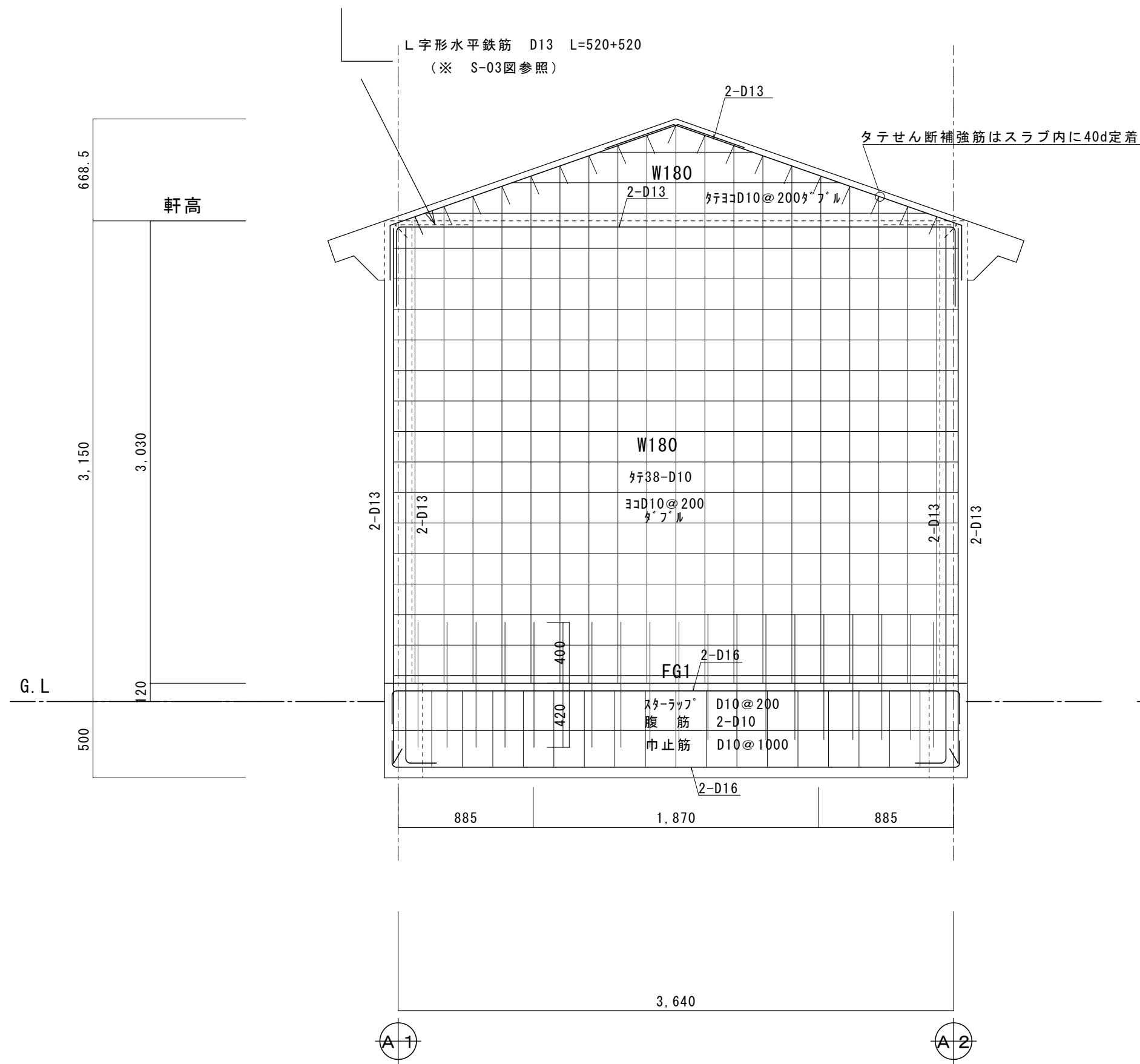
屋根スラブ頂部 配筋図



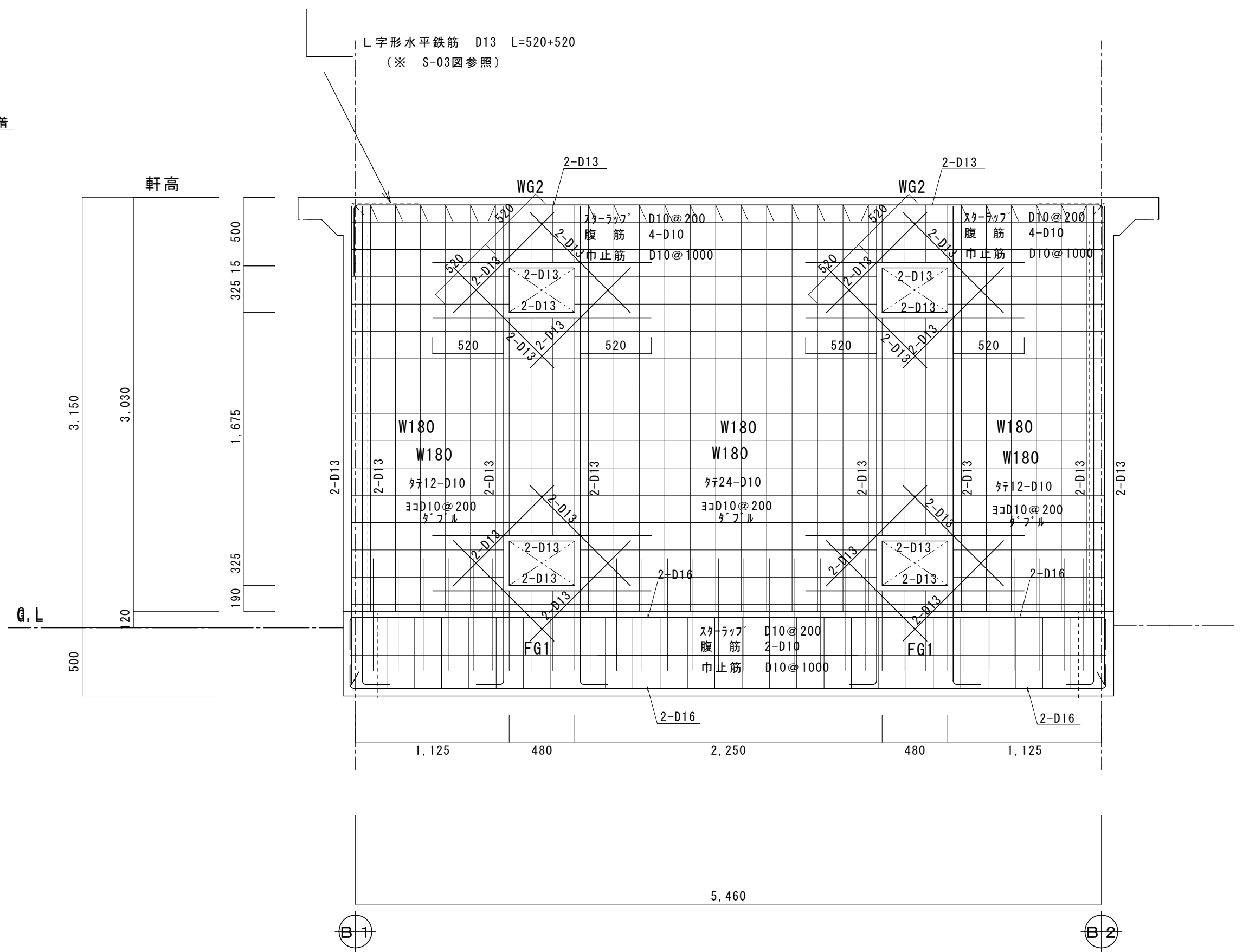
壁平面 配筋詳細図 1 / 30



B 1 通り 配筋詳細図 1 / 30



B 2 通り 配筋詳細図 1 / 3 0



A 1 通り 配筋詳細図 1 / 3 0